

魚沼医療圏の医療事情

魚沼基幹病院の現状と課題

魚沼基幹病院 病院長
鈴木 榮一

魚沼基幹病院との関わり

平成18年9月19日 第1回魚沼基幹病院(仮称)整備検討会

(新潟大学;医歯学総合病院・本部、新潟県;福祉保健部・病院局)

・必要な診療機能、医師育成機能、臨床研究機能、**医師確保**、等

(～第5回;平成20年3月17日)

「魚沼基幹病院(仮称)設置に向けた新潟県と新潟大学の連携に関する覚書」

平成21年1月26日 第1回魚沼基幹病院に関するワーキンググループ

(第2回;平成21年2月18日 第3回;平成21年3月26日)

・魚沼基幹病院(仮称)に期待するもの、**魚沼基幹病院(仮称)に関する考え方**

「魚沼基幹病院(仮称)と再編後の医療提供体制について【地元案】」

(平成21年5月11日;魚沼地域医療整備協議会)

「魚沼基幹病院(仮称)基本計画(素案)」 (平成21年6月;新潟県)

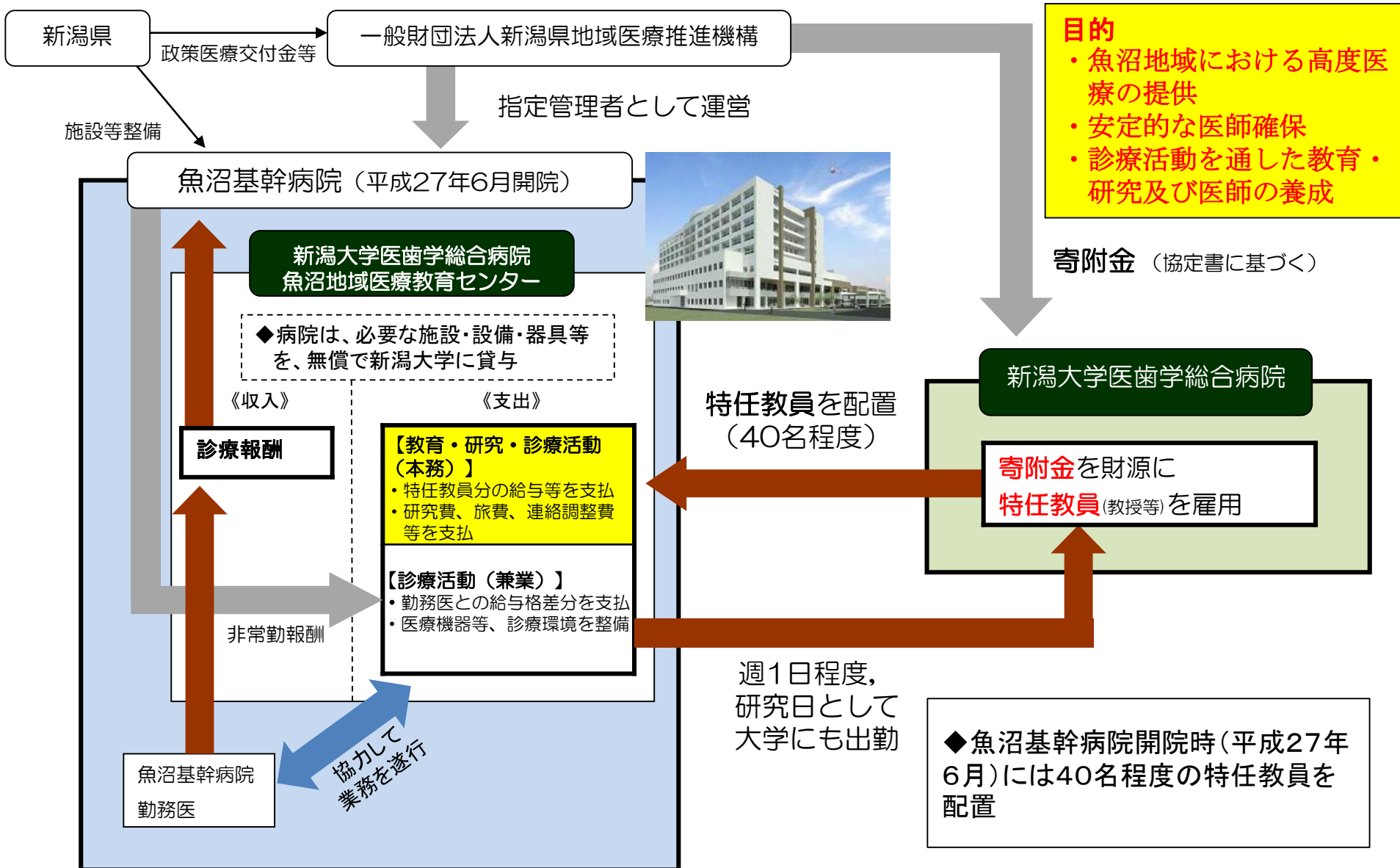
「魚沼医療圏地域医療再生計画」 (平成21年10月;新潟県)

平成21年12月24日 第1回魚沼基幹病院(仮称)建設委員会

平成25年2月22日 新潟大学、新潟県、地域医療推進機構の間で
協定書締結

新潟大学医歯学総合病院魚沼地域医療教育センターの仕組み

新潟大学, 新潟県, 地域医療推進機構の間で協定書を締結(平成25年2月22日)



県医療行政との関わり

- 平成19年： 良医育成新潟県コンソーシアム代表
- 平成23年6月： 地域医療を担う医師養成・キャリア形成支援
等検討委員会委員
- 平成27年3月： 新潟県保健医療推進協議会委員
地域医療構想策定部会委員
- 平成29年9月： 新潟県地域医療構想・地域保健医療計画
推進部会委員
- 平成29年3月： 新潟県地域医療構想の策定
- 平成30年3月： 第7次新潟県地域保健医療計画の策定
→ 地域医療構想調整会議への参画
- 平成30年8月： 地域医療構想アドバイザー
- 令和2年11月17日 第1回新潟県地域医療構想調整会議
- 令和3年3月30日 第2回新潟県地域医療構想調整会議

南魚沼市 医療のまちづくり検討委員会

令和2年3月1日 第1回検討委員会

医療法人社団萌気会 理事長 黒岩卓夫 先生
公益社団法人地域医療振興協会 岡本 靖 様

令和2年4月24日 第2回検討委員会

南魚沼市民病院 看護部・診療放射線部・地域医療連携室
ゆきぐに大和病院 看護部・臨床検査科

令和2年5月27日 第3回検討委員会

南魚沼市病院事業管理者 宮永和夫 先生

令和2年7月4日 第4回検討委員会

六日町地区地域づくり協議会
南魚沼市女子力観光プロモーションチーム
南魚沼市筋力づくりサポーターの会

令和2年8月19日 第5回検討委員会

NTT東日本新潟支店 第一ビジネスイノベーション部
株式会社アイセック
医療法人崇徳会田宮病院 介護医療院

令和2年9月29日 第6回検討委員会

「医療のまちづくり検討委員会 提言」

魚沼地域の医療再編

《 医療の課題と求められる病院像 》

《環境変化》

- 超高齢社会の進行
- 医療の高度・専門化
- 新たな臨床研修制度
- 7：1 入院基本料創設
- コンビニ受診の問題

《課題》

- 福祉・医療との機能分担
- 医師不足・偏在の解決
- 大学医局の人材不足の解決
- 看護職員不足・偏在の解決
- 住民の適正受診

モデルの実現

《求められる病院像》

「病院完結型」から 「地域完結型」医療 システムへの再編

- ・救命救急・高度医療機能の整備
- ・病院間の機能分担
- ・総合診療の体制整備

医師・看護師にとって 魅力ある病院の実現

- ・研修・研究機能の充実
- ・総合診療医の育成拠点
- ・キャリアアップ支援
- ・働きやすい職場環境
- ・弾力的な運営（公設民営）

行政のバック アップ

- ・政策的医療の安定提供支援
- ・一～三次医療の課題解決

住民も医療 チームの一員

- ・適正受診の啓発・実践
- ・医療現場の課題を理解

《 魚沼地域医療の現状と課題 》

救命救急・高度医療を担う病院が不足

- 三次救急は、中越圏域(長岡赤十字病院等)に頼る状況

《H25魚沼圏域の重症患者救急患者搬送状況(全日)》

搬送先	魚沼	中越	その他	合計
人数	867	203	22	1,092
割合	79.4%	18.6%	2.0%	100%

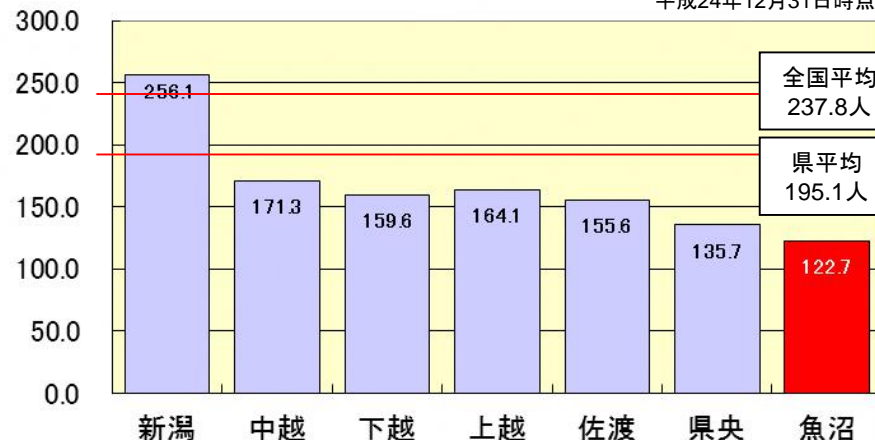
- 高度医療も中越圏域に頼る状況

医師の不足と偏在

- 新潟県は全国42位
- 県内7圏域中、魚沼圏域が最低

人口10万人当たり医師数(県内圏域別)

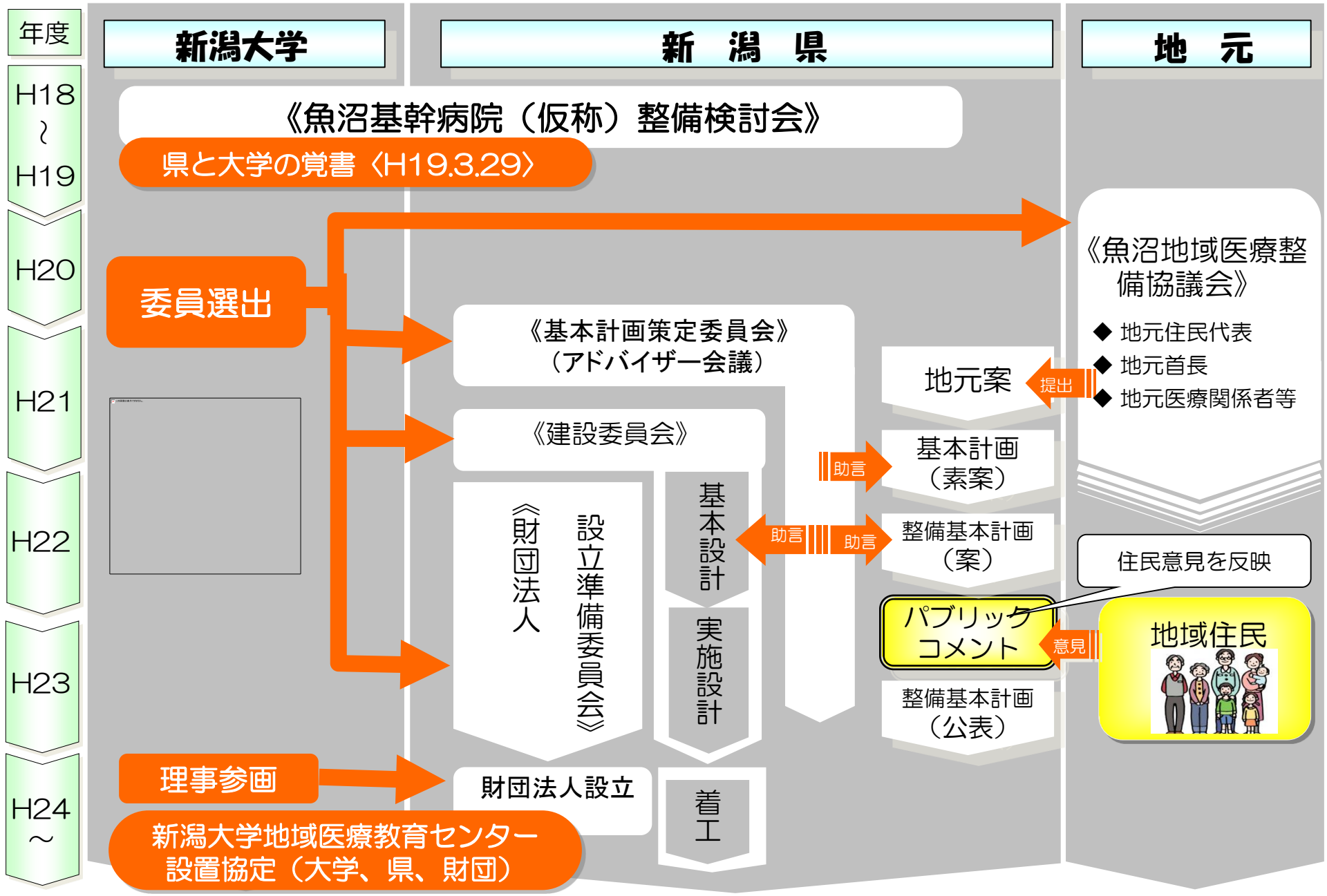
平成24年12月31日時点



県立病院の老朽化

	現施設竣工年	建物延べ面積	病床数	診療科
県立小出病院	昭和44年(東病棟)	21,805.69m ²	383床	16診療科
県立六日町病院	昭和54年	15,082.92m ²	199床	14診療科

《 これまでの経緯 》



魚沼地域の医療再編について

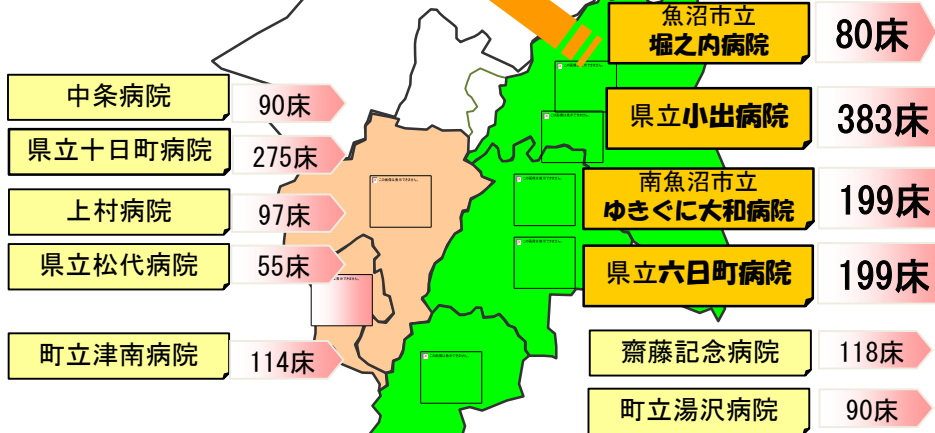
再編前

中越医療圏

【中越圏域に入院患者が流出】
 ◆悪性新生物〈24.8%〉
 ◆心疾患〈18.0%〉 (注)

長岡地域の病院等

魚沼医療圏



※救急告示病院等を掲載
 (病床数は精神を含む)

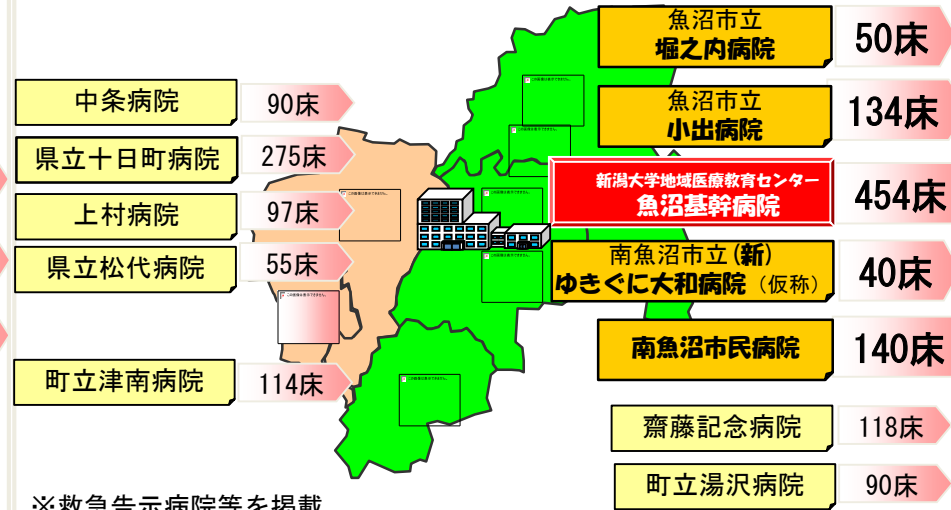
再編後

魚沼医療圏

基幹病院

機能分担・連携

周辺病院



※救急告示病院等を掲載
 (病床数は精神を含む)

- 三次救急・高度医療は他圏域に依存
- 県内7圏域中で最低の医師不足地域
- 施設間で機能分担と連携ができていない
- 周辺病院の老朽化

- 三次救急医療や高度医療の確保
- 医療情報の共有と機能分化に基づく医療提供体制の構築
- 医師育成と医師派遣による協力体制の構築
- 病院経営効率化と経費削減

医療再編の行程について

2015年6月からの、魚野川沿い公立病院再編一覧

	～2015年5月31日	2015年6月1日～	2015年11月1日～	2016年4月1日～
魚沼基幹病院		新設 病床数 454床 →→→→ (… 356床)		
六日町病院	病床数 199床	南魚沼市立六日町病院 病床数 20床	南魚沼市民病院 病床数 140床	
ゆきぐに大和病院	病床数 199床		病床数 40床 →→ 45床 (2018年3月～)	
小出病院	病床数 383床	魚沼市立小出病院 病床数 90床	病床数 134床	
堀之内病院	病床数 80床 →→ 50床 (療養病床) (2015年4月～)			→→ 0床 (2017年4月～)

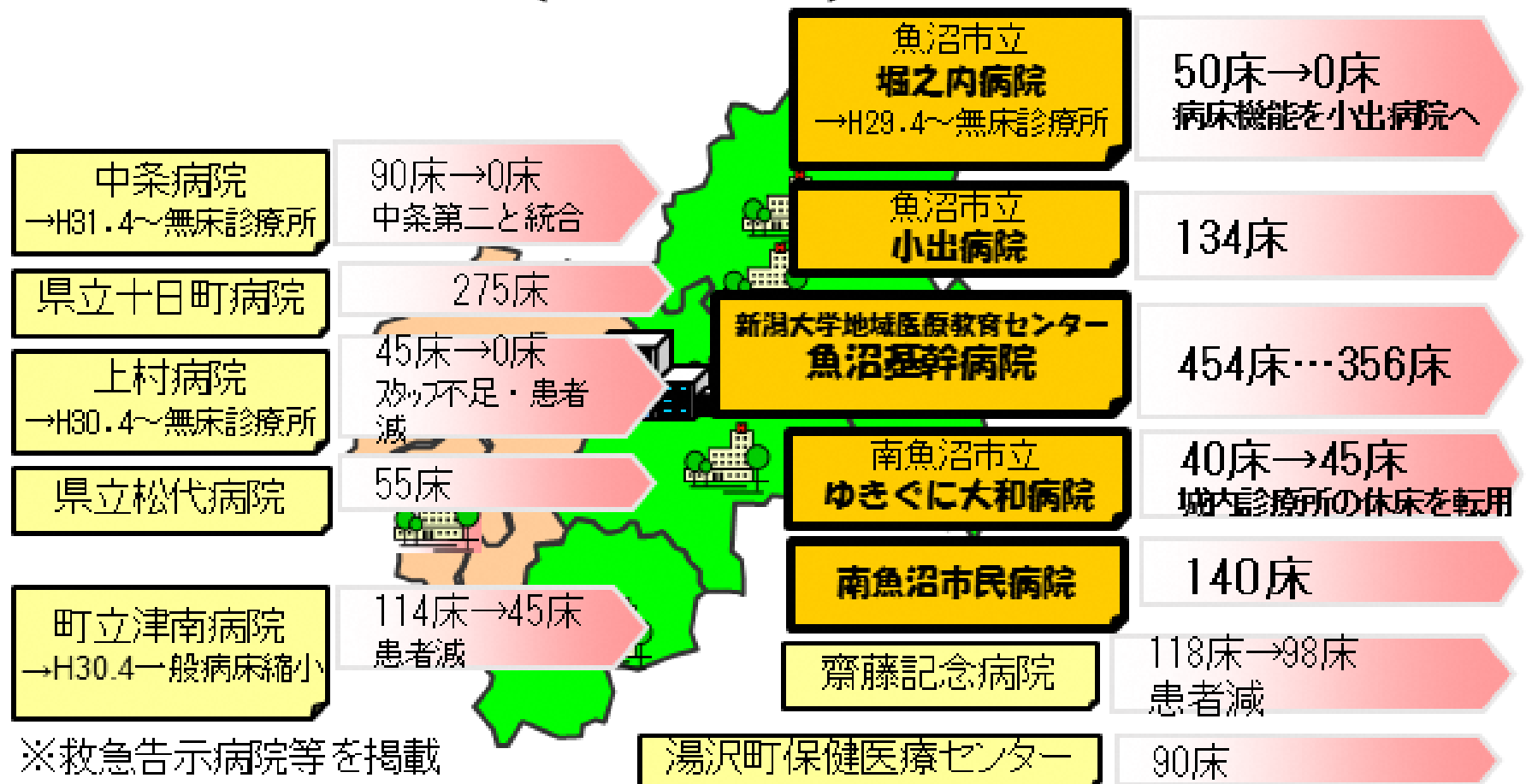
(2020年9月1日現在)

再編後の病床数

基幹病院

機能分担・連携

周辺病院



※救急告示病院等を掲載
(病床数は精神を含む)

(再編直後) 1,605床 → (R2.9.1現在) 1,238床

《 魚沼基幹病院整備の基本的な考え方 》

魚沼地域の拠点的医療を担う基幹病院として、地域に貢献する医療機関を目指します。

1 地域医療の充実と質の向上に寄与する

- 地域医療の担い手の育成
- 医師の集まるマグネットホスピタル

2 地域づくりに資する役割を果たす

- 将来に希望の持てる魅力ある環境づくり
 - ・ 地域産業の活性化
 - ・ 地域住民の健康寿命の延伸

基本方針

上記の役割を踏まえ、次の基本方針により整備します。

1 地域医療を担う病院

➡ 救命救急医療、高度先進医療、災害拠点機能など

2 地域医療を担う医師等を育成する病院

➡ 総合診療医等の養成、看護師等のキャリア形成支援

3 研究機能を有する病院

➡ 臨床研究機能など

4 働く者にやさしい病院

➡ 医師・看護師等の子育て支援、柔軟な勤務体系など

5 経営環境の変化に柔軟に対応できる病院

➡ 財団法人による運営

3つの特色

① 医師等育成機能

総合診療医の育成など

② 研究機能

臨床研究機能など

③ スノーリゾートと外傷医療

地域の特性を活かした医療

医療提供機能と医師養成機能の連携

住民に信頼される医療提供機能

- 地域救命救急センター
- 地域がん診療連携拠点病院
- 地域周産期母子医療センター
- 外傷センター
- 魚沼地域の拠点的医療の実現

これまで魚沼地域に不足していた
救命救急・高度医療を充実

連携

医師養成機能

- 新潟大学地域医療教育センターと連携した地域医療人の育成
- ・新潟大学等と連携し、初期から高度医療までを一貫して教育
→地域医療に意欲的な若手医師の集積
- ・総合診療医又は総合診療の能力を有した内科系専門医・外科系専門医を育成するなかで地域医療の充実に貢献
- ・優秀な指導医を集積することで医療水準を高度化

基幹病院の機能をさらに強化

新潟大学地域医療教育センターとの連携

概要

- 基幹病院に大学の組織として「新潟大学医歯学総合病院魚沼地域医療教育センター」を設置
- 大学と連携して地域医療を担う観点から、対外的な名称は教育センターと基幹病院を連記
新潟大学医歯学総合病院魚沼地域医療教育センター
新潟県地域医療推進機構魚沼基幹病院
(略称：新潟大学地域医療教育センター・魚沼基幹病院)
- 大学の選考（公募等）により、大学の職員（教授等）として配置
- センター職員を核として、基幹病院の研修体制、診療体制の構築を推進

新潟大学にとって

- 一貫した高度医療、地域医療教育に向けた実践フィールドの確保
- キャリアアップへの新たなルート創出による教員のモチベーションアップ
- 地域医療に意欲的な研修医の獲得

基幹病院にとって

- 基幹病院の核となる臨床医、指導医の集積
→ 診療体制の構築
- 魅力的な研修プログラム・体制の構築
- 地域医療に意欲的な研修医の県内外からの獲得

研修医にとって

- 大学が有する充実した教育資源・ノウハウの享受
- 優秀な指導医のもとでの教育・実習への期待
- 初期から高度医療・救急までの一貫した研修プログラムによる能力養成

患者にとって

- 良質な医療の享受
- 新潟大学の教育センターを併設することによる医療への信頼
- 多くの意欲的な若手医師が集まることによる将来への安心感

一貫した教育カリキュラムの検討イメージ

寄附講座



総合地域医療学講座

- 5、6年次生の地域医療実習など

卒後臨床研修

- 基幹型臨床研修病院として研修実施

8名程度 × 2年(16名)

※開院後2年間は新潟大学等の協力型臨床研修病院として研修医を受入
(基幹型病院の指定要件として、2年間の臨床研修実績が必要)

- 新潟大学等の協力型臨床研修病院
- 地域医療研修の受入

総合診療医研修（後期研修）

- 総合診療医研修
基幹病院の各診療科等と周辺病院をローテートし、
専門医療研修とプライマリーケア研修を行う。

6名程度 × 3年(18名)

- 専門医研修
新潟大学等と連携し、専門学会の認定医・専門医資格を取得できる研修を行う。

※開院当初は新潟大学の専門医養成コースの研修施設として研修医を受入
(各学会による施設認定や認定指導医の確保など受入体制整備までの間)

- コ・メディカルスタッフ研修
- 救命救急研修などイベント実施
- 看護学生臨床実習

教育
センター
設置



指導医



新潟大学

連携

周辺病院

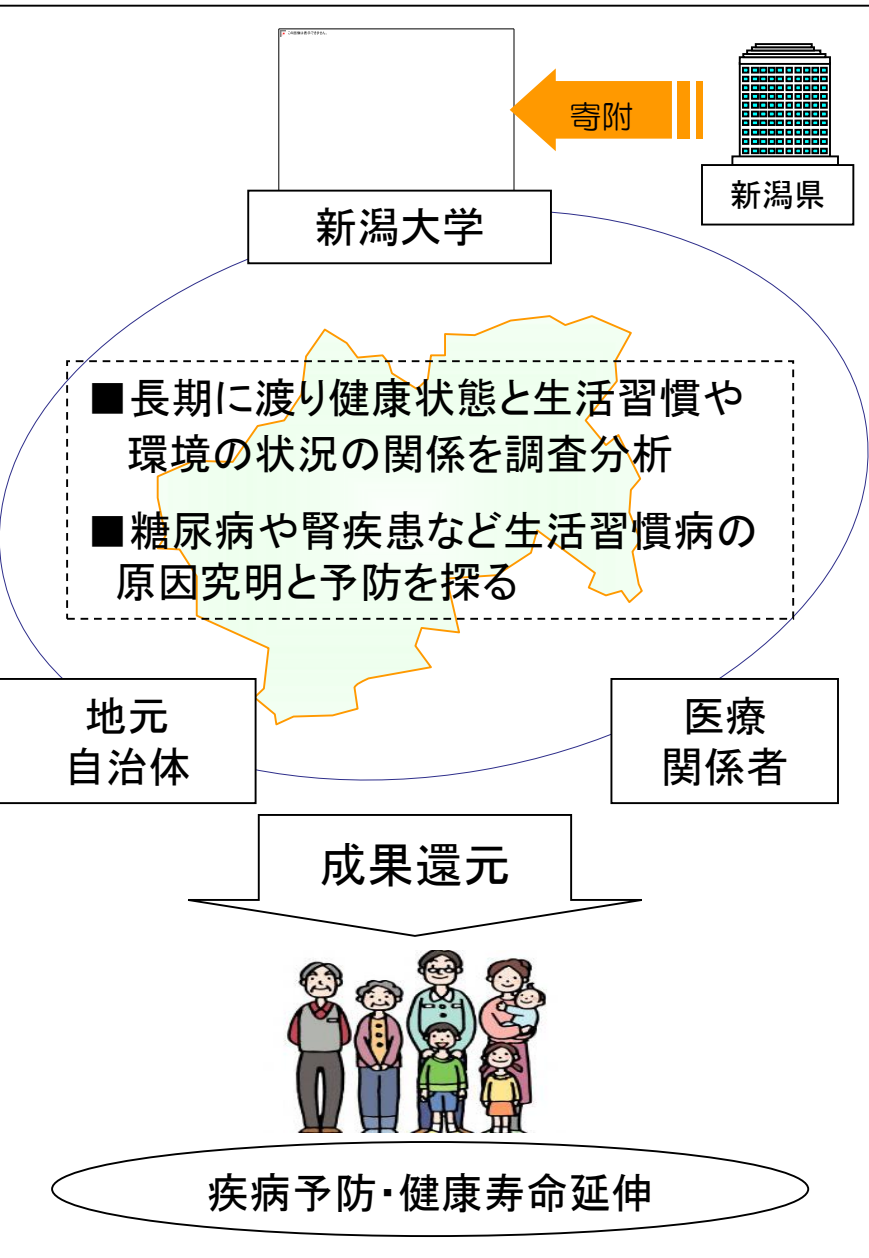
診療所

福祉施設

医師会

行政

コホート研究（疫学研究）拠点の併設



健康増進医学講座（新潟県寄附講座）

概要

「魚沼基幹病院」に併設する「魚沼臨床研究センター（仮称）」に先行する研究機関として、新潟県が、新潟大学に寄附を行い寄附講座を設置

事業

- 疾病予防に資する健康調査に基づいた研究
- 健康寿命延伸を目標とする介入プログラムの研究
- 運動、栄養や健康増進活動、それらに関する疾病、障害の防止や治療に関する研究 など

期間

平成24年1月1日から平成28年3月31日（継続を前提）

金額

寄附 324,800千円 23年度 12,800千円
24年度～26年度 100,000千円/年

拠点

- 研究フィールド：魚沼地域を始めとする中山間地域等
- 魚沼地域におけるフィールド拠点：南魚沼市

※東京大学も平成24年5月から研究協力

開院時の魚沼基幹病院スタッフ予定数 H27.4.1現在

医師

医師の専門科	人	医師の専門科	人	医師の専門科	人
総合診療科	2	外科	7	耳鼻咽喉科	2
循環器内科	3	心臓血管外科・呼吸器外科	2	産婦人科	6
血液・内分泌・代謝内科	2	整形外科	5	放射線治療科・放射線診断科	2
腎・呼吸器・感染症内科	7	形成外科	1	麻酔科	2
消化器内科	6	脳神経外科	2	病理診断科	1
神経内科	3	皮膚科	3	救急科	3
精神科	4	泌尿器科	2	歯科口腔外科	2
小児科	6	眼科	2	医師数合計(見込)	73

<内訳>

教育センター教員	40
病院勤務医	35

メディカルスタッフ等

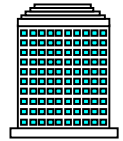
職種	プロパー職員	県派遣職員等	計
看護師	118	164	282
助産師	7	10	17
薬剤師	8	8	16
診療放射線技師	13	6	19
臨床検査技士	12	11	23
理学療法士	4	3	7
作業療法士	3	2	5
臨床工学技士	8		8
視能訓練士	1	1	2
歯科衛生士	2		2
管理栄養士	4	1	5
医療ソーシャルワーカー	4	1	5
臨床心理員	1		1
事務等	12	17	29
計	197	224	421

※ 開院時に必要な職員の確保は、ほぼ目処が立ったが、産休・育休等の代替職員も踏まえ必要に応じて採用を継続する予定

医師の集積に向けた取組

新潟大学との連携

新潟県



県と大学の覚書
(H19.3.29)

医師確保について連携・協力

新潟大学

再編病院からの移行

小出病院、六日町病院等



魚沼臨床研究センター

新潟大学

キャリア形成

■東京大学とも連携

自治医科大学出身医師



※ 全県で10~12名程度が県内各病院に配置

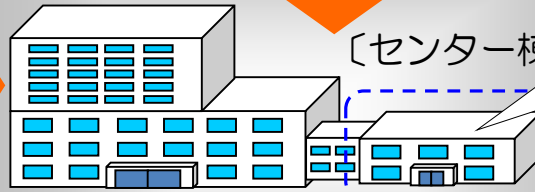
修学資金貸与医師

※ H28~当面、全県で毎年約15名増加



地域医療支援センター

〔病院棟〕



〔センター棟〕

新潟大学医歯学総合病院魚沼地域医療教育センター
新潟県地域医療推進機構 魚沼基幹病院

新潟大学の教育センター機能導入

(新潟大学医歯学総合病院魚沼地域医療教育センター)

総合地域医療学講座

新潟大学

教育センター設置

指導医

研究医

コホート研究



地域住民

成果論文

(主に生活習慣病)

拡充

+

臨床研修医
総合診療医
(専門医)

連携



研修医

周辺病院

福祉施設

在宅医療

中長期事業計画（10年間）の方向性

H27

H30

H33

H37

第1ステージ
医療再編・基盤整備

第2ステージ
経営安定・展開

第3ステージ
発展・充実

- 医療再編・機能分担構築
- 段階的な地域完結型医療への移行
- 新潟大学地域医療教育センターの立ち上げ、協力型臨床研修病院としてのスタート
- 病院の基盤づくり
 - ・院内のチームづくり・連携
 - ・三次救急、高度医療、各種診療科の着実な立上げ
 - ・PNS導入
 - ・周辺病院との連携体制構築
 - ・養成学校との連携
 - ・研修制度構築・実践
 - ・Uターンを中心としたリクルート活動
 - ・職場環境整備
 - ・委託による効率化

- 基幹型臨床研修病院への移行
 - ・自立的な研修医の獲得
- 地域がん診療病院等への移行
- 地域医療支援病院への移行
- DPC対象病院への移行
- 戦略的な診療報酬の獲得
→ 経営安定化へ
- 医療機器・情報システムの更新など医療環境の充実
- 患者、職員の満足度向上

- ブランド力のある病院へ
 - ・首都圏の患者も視野に
- マグネットホスピタルの創出
 - ・全国からのスタッフ集積
 - ・世界を見据えた医療人育成
 - ・先進病院との人事交流 など
- 発信力のある病院へ
 - ・公開講座、国内外での研究発表
- 超高齢社会に対応した病院へ
 - ・医療・福祉連携、総合診療医輩出
- 地域の核づくりとなる病院へ
 - ・産官学連携、メディカルタウン

＜患者需要を踏まえた稼働病床の推計＞

		H27	H28	H29
1日平均患者数 (入院患者)		285	324	366
	流出戻り設定	20%	50%	90%
病床数	許可	454	454	454
	稼働	354	404	454

※平成25年度の再編対象病院の入院患者数を基に再編後の病床規模で推計
 ※魚沼医療圏から長岡地域等に流出している患者の戻りを段階的に設定

基幹病院を核とした地域連携の取組方向

以下の取組を中心に、基幹病院を核とした地域連携を推進し、医療体制を強化・効率化

医療連携ネットワーク

- 医療機関が連携した患者紹介・逆紹介の推進
- 受診データ共用による住民の健康管理
- 救命救急時の迅速な受診履歴の活用
- コホート研究へのデータ活用

研修体制の構築

- 地域一丸となった指導体制の充実
- 基幹病院、周辺病院、福祉施設が連携した魅力的なカリキュラムの構築
- 研修コーディネーターによる円滑な受入

柔軟な医師派遣

- 基幹病院への多様な分野の医師集積
- 周辺病院への柔軟な医師派遣システム構築
- 新潟県、新潟大学、財団法人、地元自治体との連携・協力体制の構築

コホートを通じた健康寿命の延伸

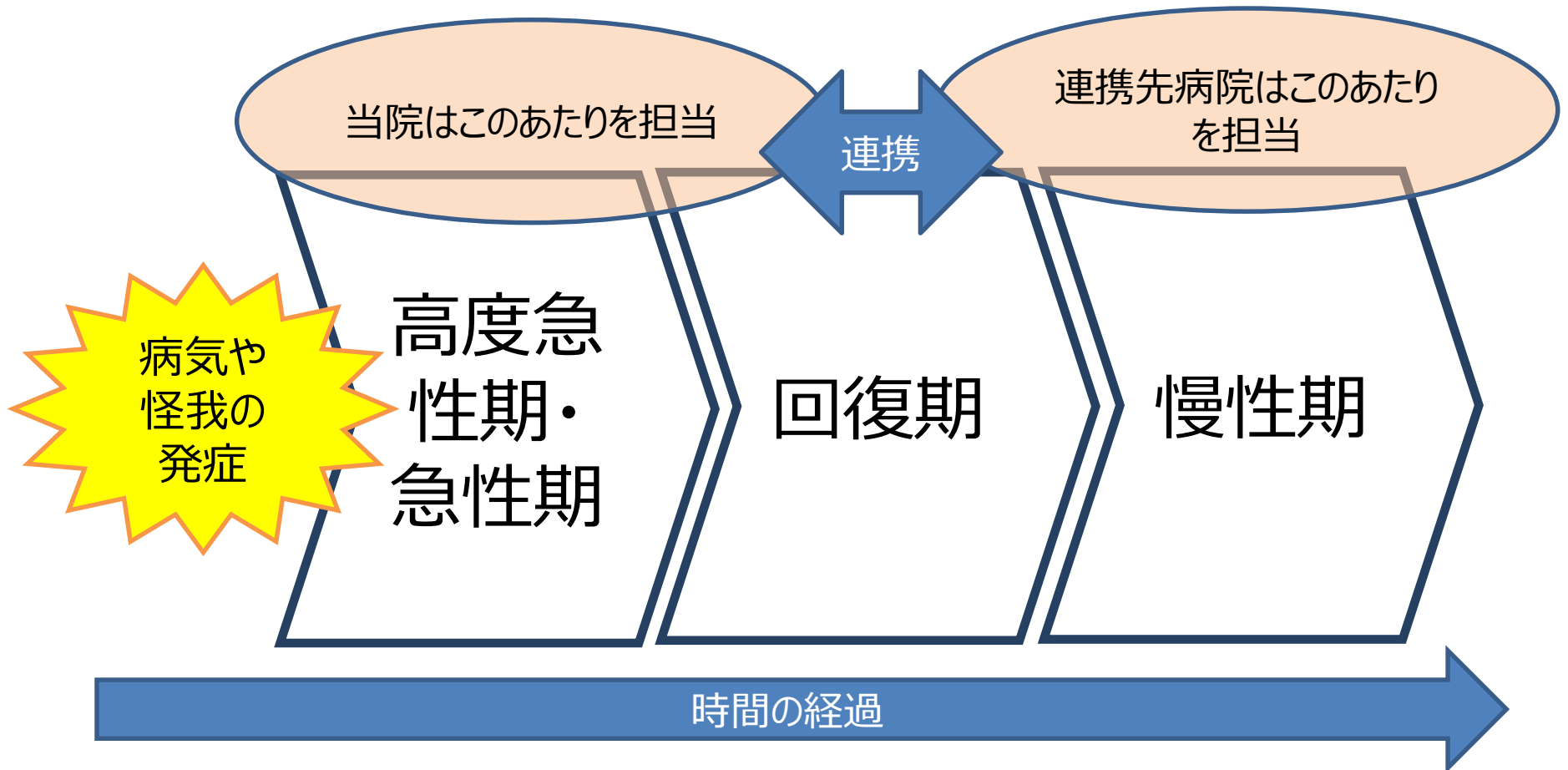
- 大学、医療機関、地元自治体、検査機関が連携した試料等の収集・研究支援
- 住民の参画・理解促進に向けた広報活動
- 住民への研究成果の還元
→ 健康寿命の延伸

住民との協働

- 基幹病院、周辺医療機関、地域医療魚沼学校、地元自治体が連携した啓発活動により適性受診を推進するとともに、医療現場の理解を促進

地域完結型医療

急性期～回復期～慢性期までの医療を
地域（生活圏に近い場所）で完結させること



開院後経過

- 平成27年6月 稼働病床数 308床（一般254床、感染4床、精神50床）
PNS(パートナーシップナーシングシステム)実施
地域災害拠点病院、DMAT指定医療機関
- 平成28年度 UKBリサーチ開始
初期臨床研修医(協力型)6人、後期研修医2人
(11月～3月) 稼働病床数 328床（一般274床、感染4床、精神50床）
- 平成29年度 稼働病床数 308床（一般254床、感染4床、精神50床）
初期臨床研修医(協力型)4人、後期研修医2人
- 平成30年度 稼働病床数 308床（一般254床、感染4床、精神50床）
DPC導入、入退院支援コーナー稼働
臨床検査科 ISO 15189 認定取得
基幹型臨床研修病院指定
初期臨床研修医(基幹型)2人、(協力型)7人、専攻医5人
- 令和元年度 地域包括ケア病棟開設(4月～20床、10月～48床)
稼働病床数 328床(4月～)、356床(10月～)
魚沼地域退院支援を考える会 in UKB
UKB症例検討会

救急搬送の状況

魚沼市＋南魚沼市＋十日町地域

(件)

	搬送総数	魚沼圏域内搬送				圏域外搬送		
		計	魚沼基幹病院	管内市・県立病院	その他管内病院	計	長岡圏域	その他
H26年度 (6～3月)	6,200	5,540 (89.4%)		4,062 (65.5%)	1,478 (23.8%)	660 (10.6%)	521 (8.4%)	139 (2.2%)
H27年度 (6～3月)	6,243	5,943 (95.2%)	2,035 (32.6%)	2,734 (43.8%)	1,174 (18.8%)	300 (4.8%)	193 (3.1%)	107 (1.7%)
H28年度	7,540	7,191 (95.4%)	2,250 (29.8%)	3,535 (46.9%)	1,406 (18.6%)	349 (4.6%)	221 (2.9%)	128 (1.7%)
H29年度	7,633	7,228 (94.7%)	2,442 (32.0%)	3,465 (45.4%)	1,321 (17.3%)	405 (5.3%)	283 (3.7%)	122 (1.6%)
H30年度	7,616	7,080 (93.0%)	2,352 (30.9%)	3,407 (44.7%)	1,321 (17.3%)	536 (7.0%)	395 (5.2%)	141 (1.9%)
R元年度	7,371	6,845 (92.9%)	2,717 (36.9%)	3,003 (40.7%)	1,125 (15.3%)	526 (7.1%)	422 (5.7%)	104 (1.4%)

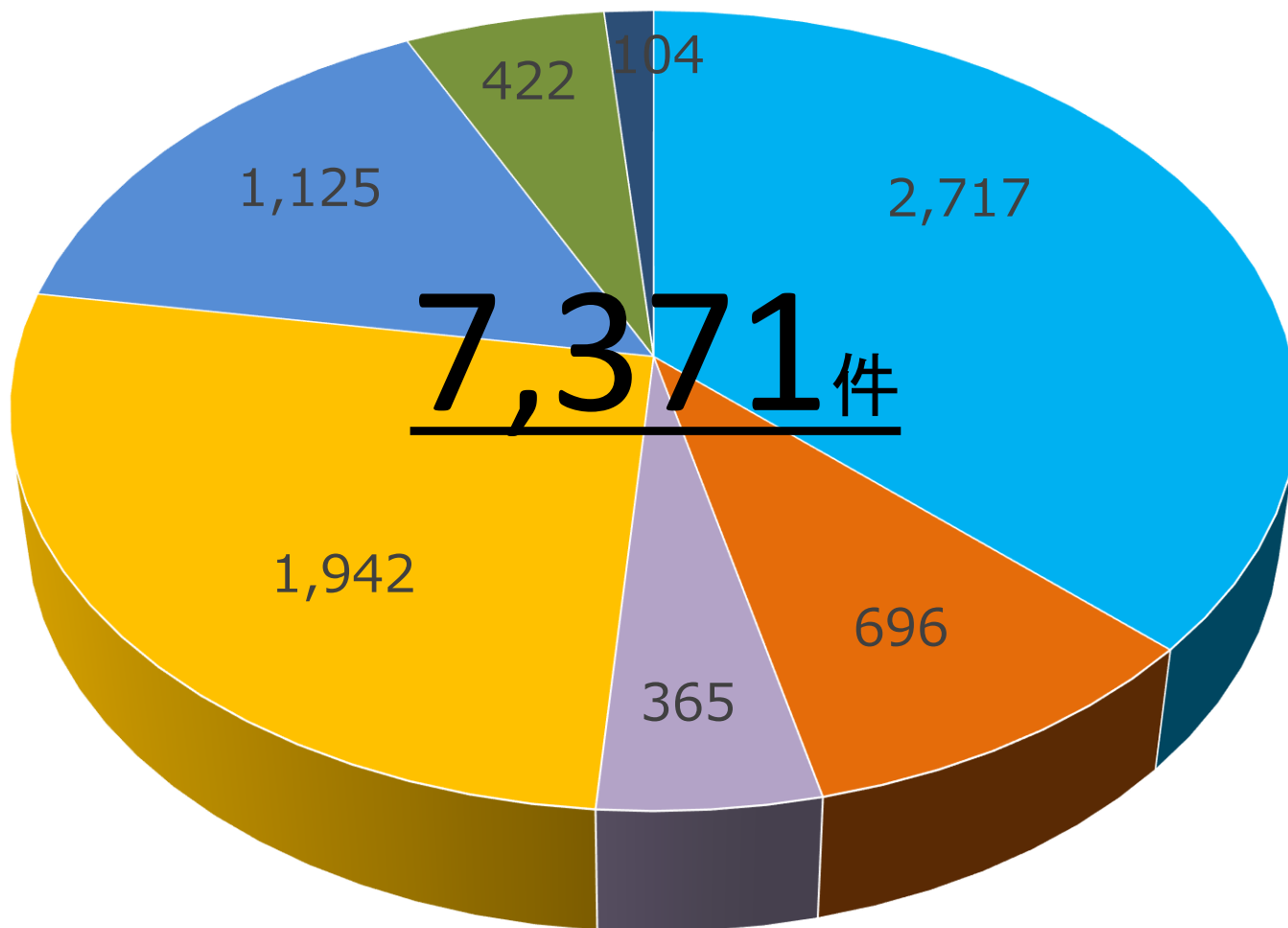
※ 管内市・県立病院には十日町病院を含む

増加傾向

令和元年度病院別救急搬送件数

■ 基幹病院 ■ 南魚沼市立病院※ ■ 魚沼市立小出病院
■ 新潟県立十日町病院 ■ 圏域内他病院 ■ 長岡圏域病院 ■ その他

※南魚沼市民病院と南魚沼市立ゆきぐに大和病院。



救急圏域外搬送件数割合

	南魚沼消防	魚沼消防	十日町消防
開院直前1年間の圏域外搬送件数割合	11.6%	13.0%	9.3%
H27.6 魚沼圏域医療再編			
H28年度	3.3%	3.8%	6.7%
H29年度	4.1%	4.2%	7.3%
H30年度	6.7%	5.5%	8.3%
R元年度	6.5%	4.4%	9.2%

人口10万人あたり医師数

医療施設に従事する医師数

112.0人

平成26年末時点



138.4人

医療圏で6番目

平成28年末時点

293位

335

医師偏在指標(2次医療圏別)

新潟市
(平成28年) 246.8人

全国平均
(平成26年) 233.6人

魚沼基幹病院→圏域内医療機関の 医師派遣回数

109.4

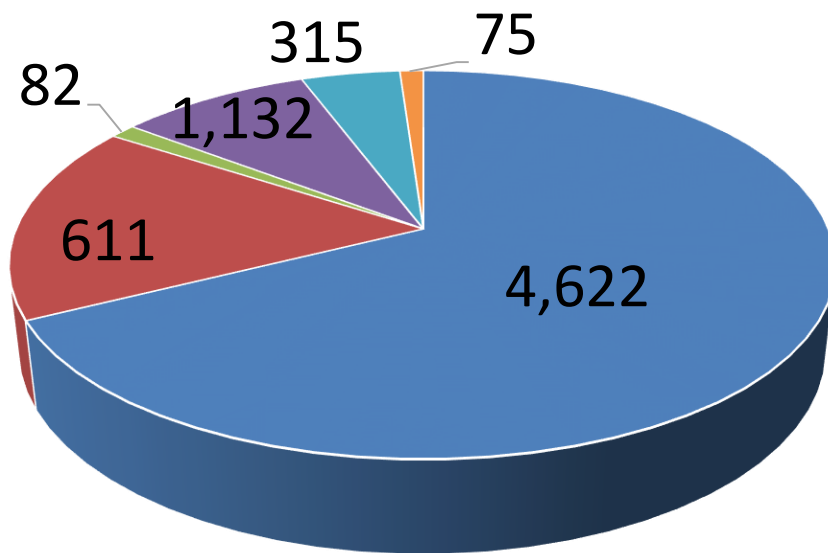
延べ

回/月(令和2年4月~12月)

眼科/血液内科/呼吸器内科/産婦人科/耳鼻咽喉科
/小児科/消化器外科・一般外科/消化器内科/心臓血管外科
/神経内科/腎臓内科/整形外科/精神科/脳神経外科/皮膚科

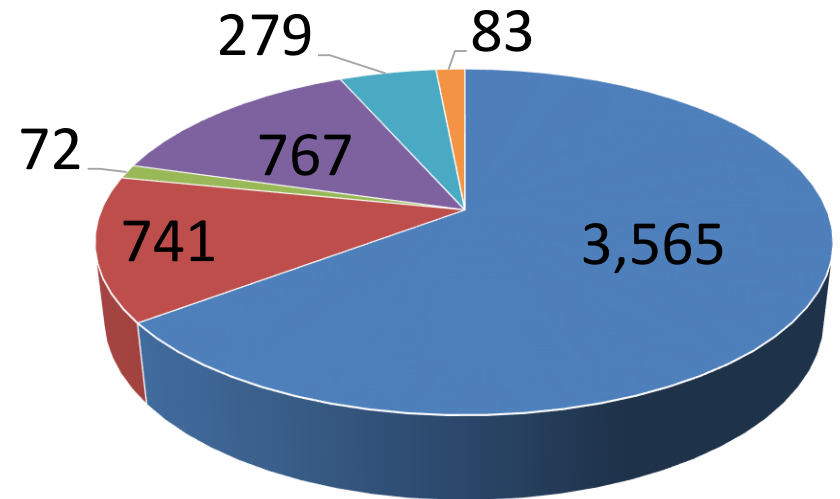
紹介/逆紹介患者数 R元年度累計

当院への紹介



計6,847件

当院からの逆紹介



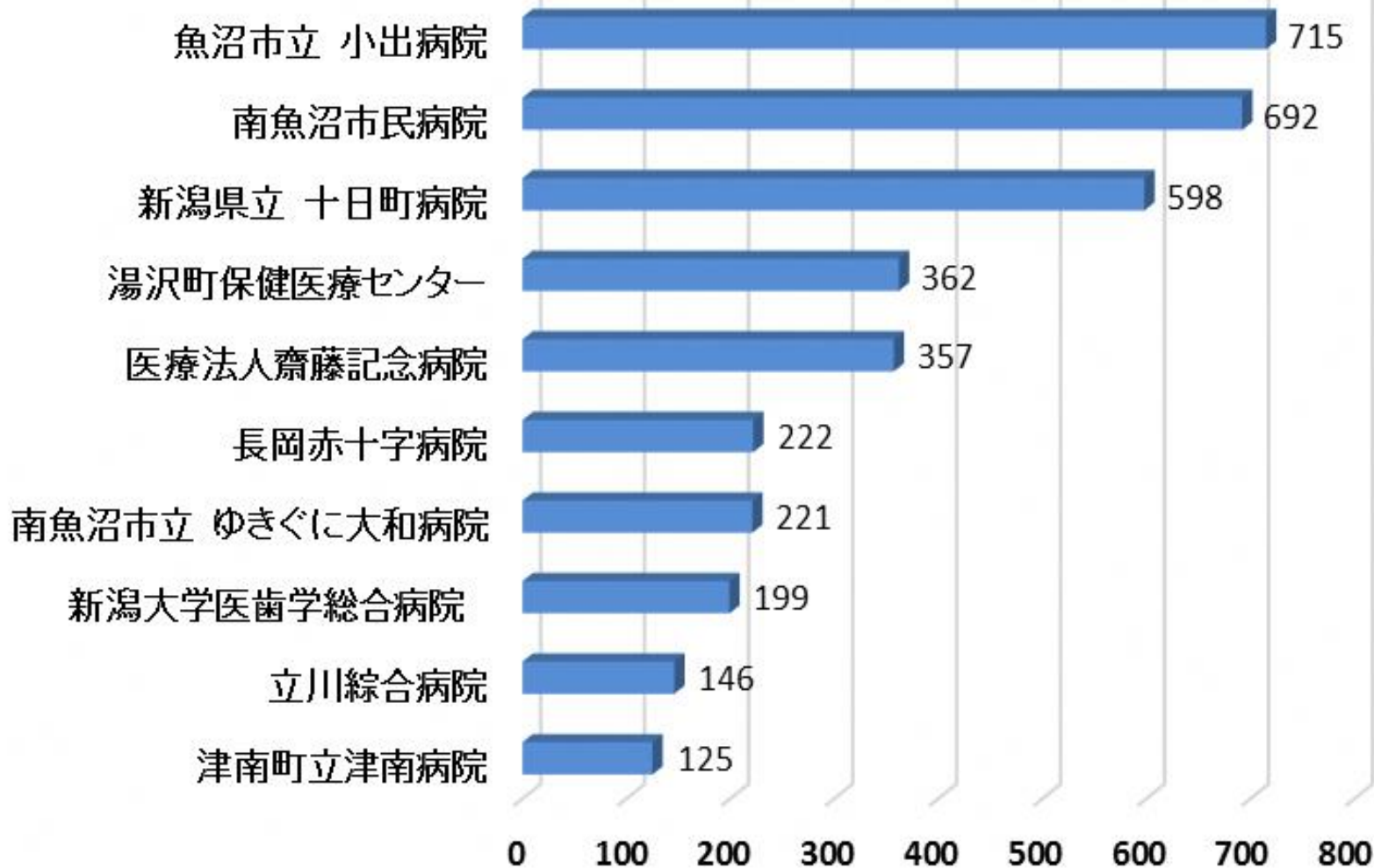
計5,507件

差異 **1,340**件

■ 魚野川 ■ 信濃川 ■ 小千谷 ■ 長岡市 ■ 新潟市 ■ その他圏域外・県外

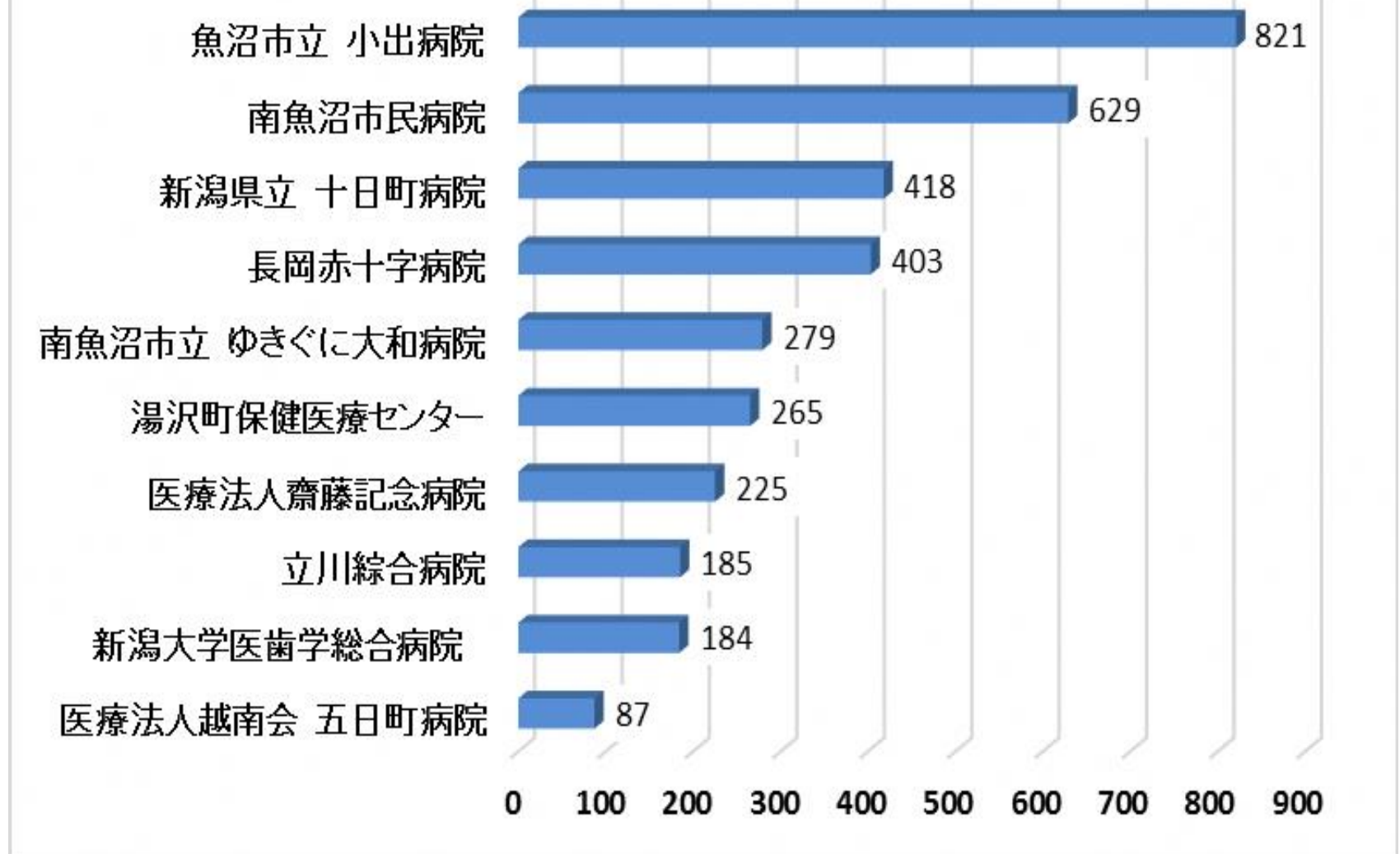
紹介患者数 R元年度累計

「当院への紹介Top10(病院)」



逆紹介患者数 R元年度累計

「当院からの逆紹介Top10(病院)」



うおぬま・米ねっと イメージ図

情報把握 : 紹介患者の情報を1画面で共有!

紹介時の情報はもちろん、過去にわたって時系列に把握可能なので、治療の頻度や投薬状況など、診療概要を把握するのにお役立ていただけます。



魚沼圏域内の参加施設（医療機関等）で情報が共有されるネットワークです。

※施設間で**情報の共有を有効**にするには、

各施設で登録作業が必要となりますので、**米ねっとカードの提示**をお願いします。

魚沼基幹病院で行った検査や処方された薬を
登録済みの医療機関でも確認できます



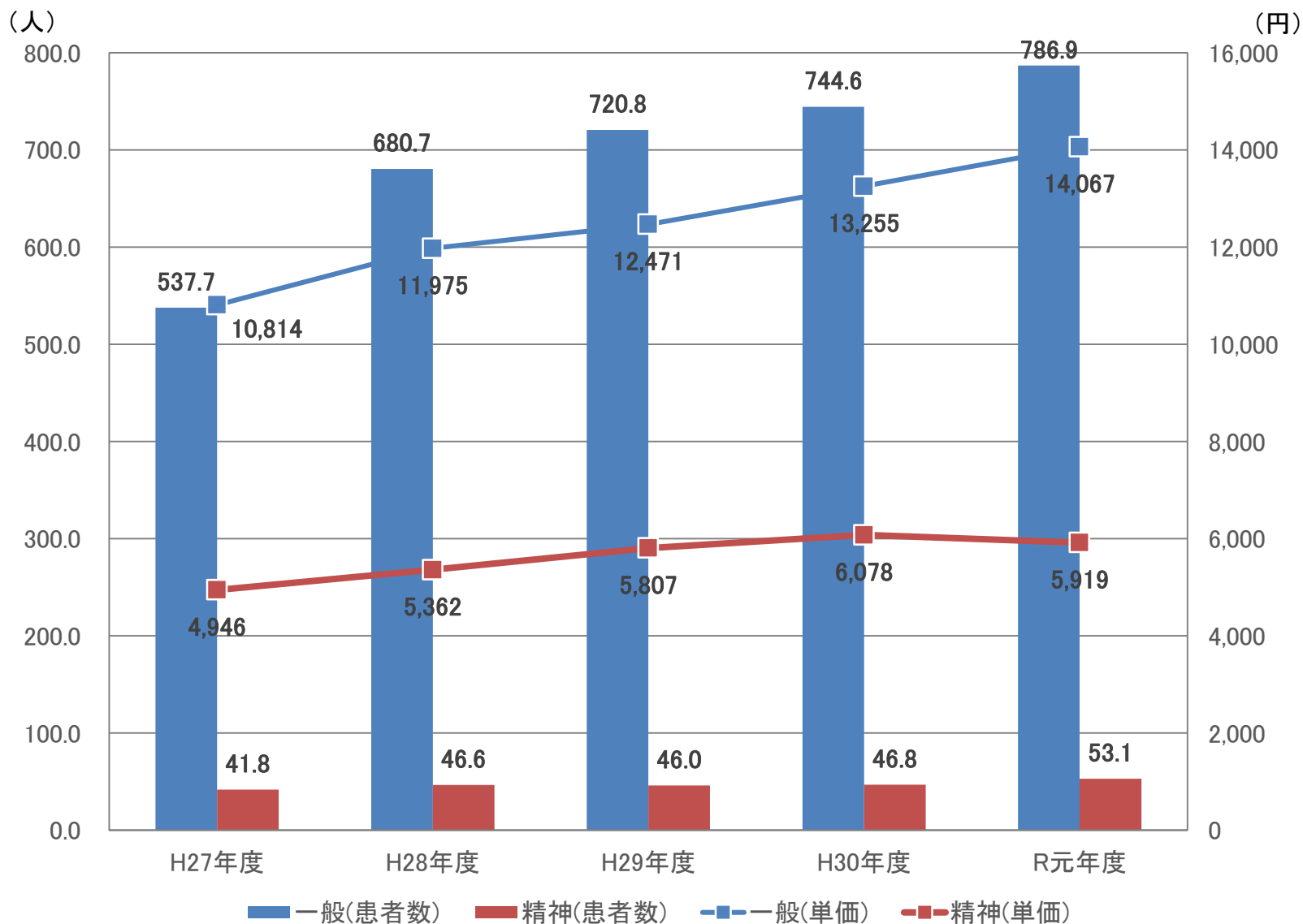
当院への救急搬送時、
より迅速かつ適切な治療を受けることができます

飲んでいる薬が
わかる

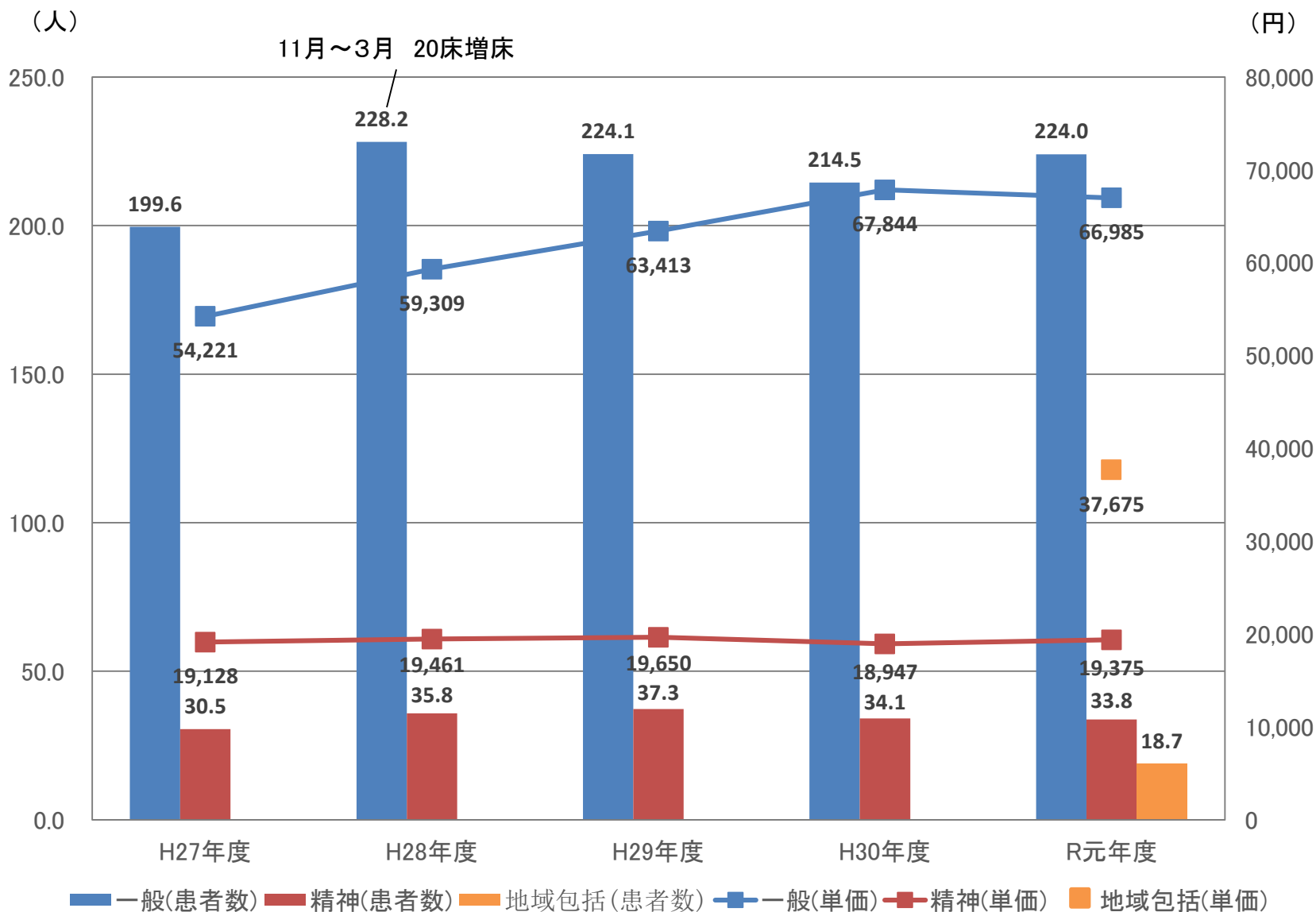
緊急時の連絡先
がわかる



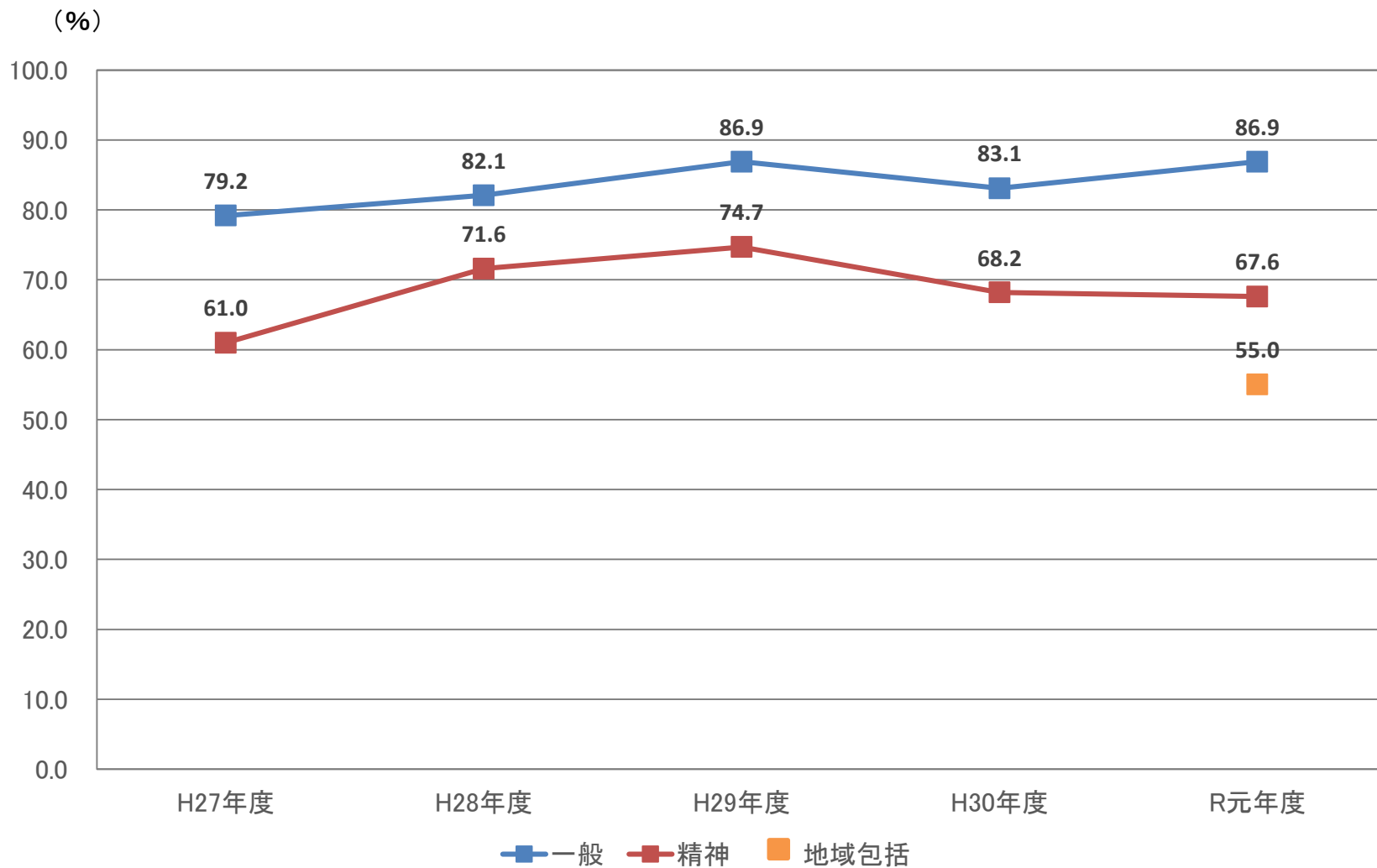
一日平均患者数、単価（外来）



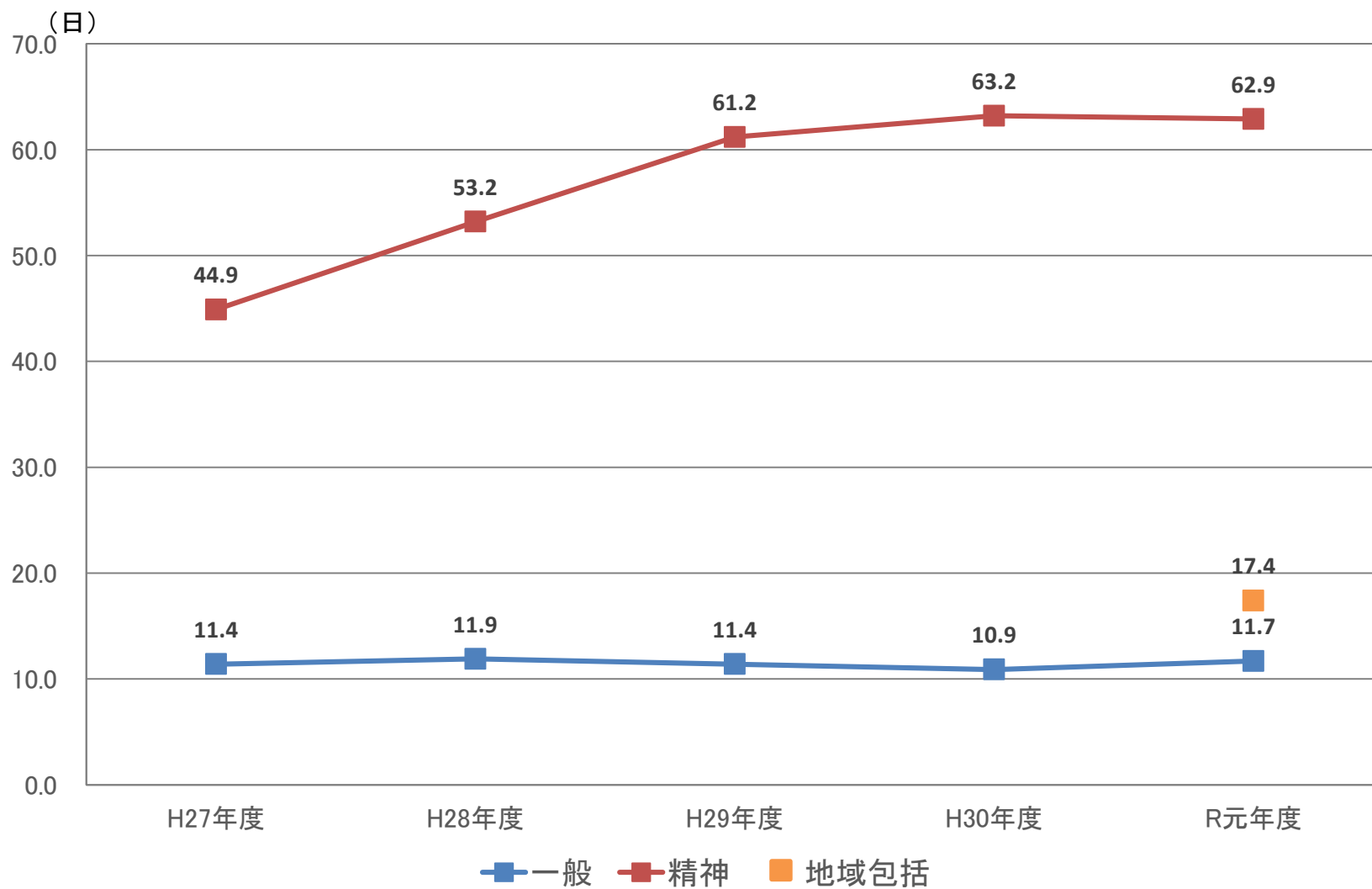
一日平均患者数、単価（入院）



病床稼働率



平均在院日数

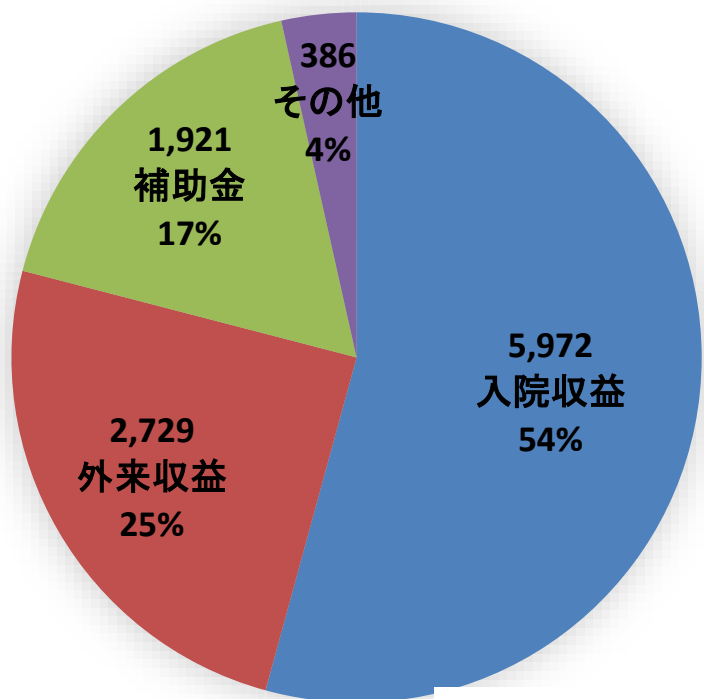


令和元年度収入・支出決算額の内訳

(単位:百万円)

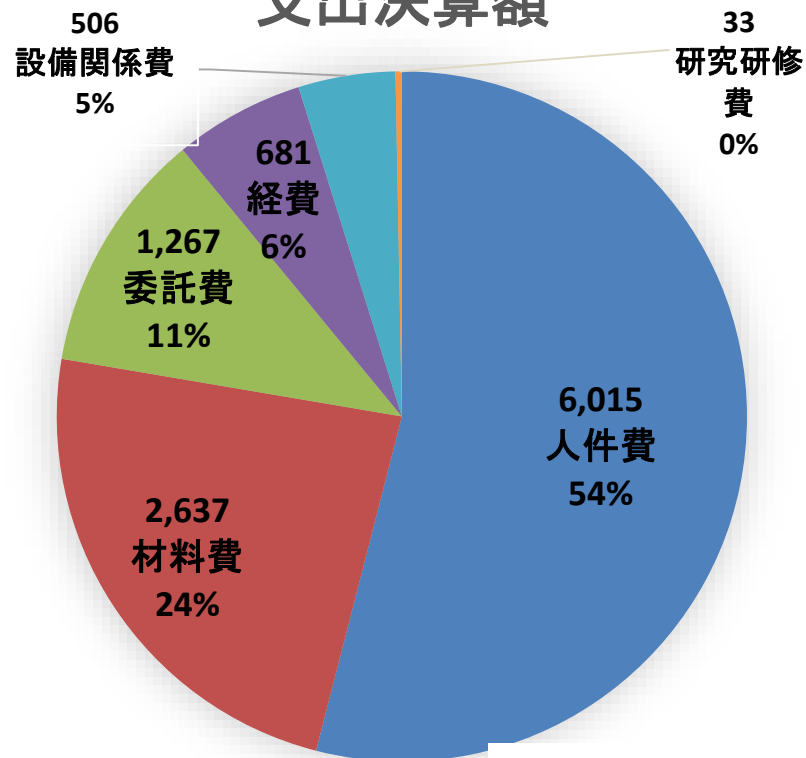
(単位:百万円)

収入決算額



合計: 11,008百万円

支出決算額



合計: 11,139百万円

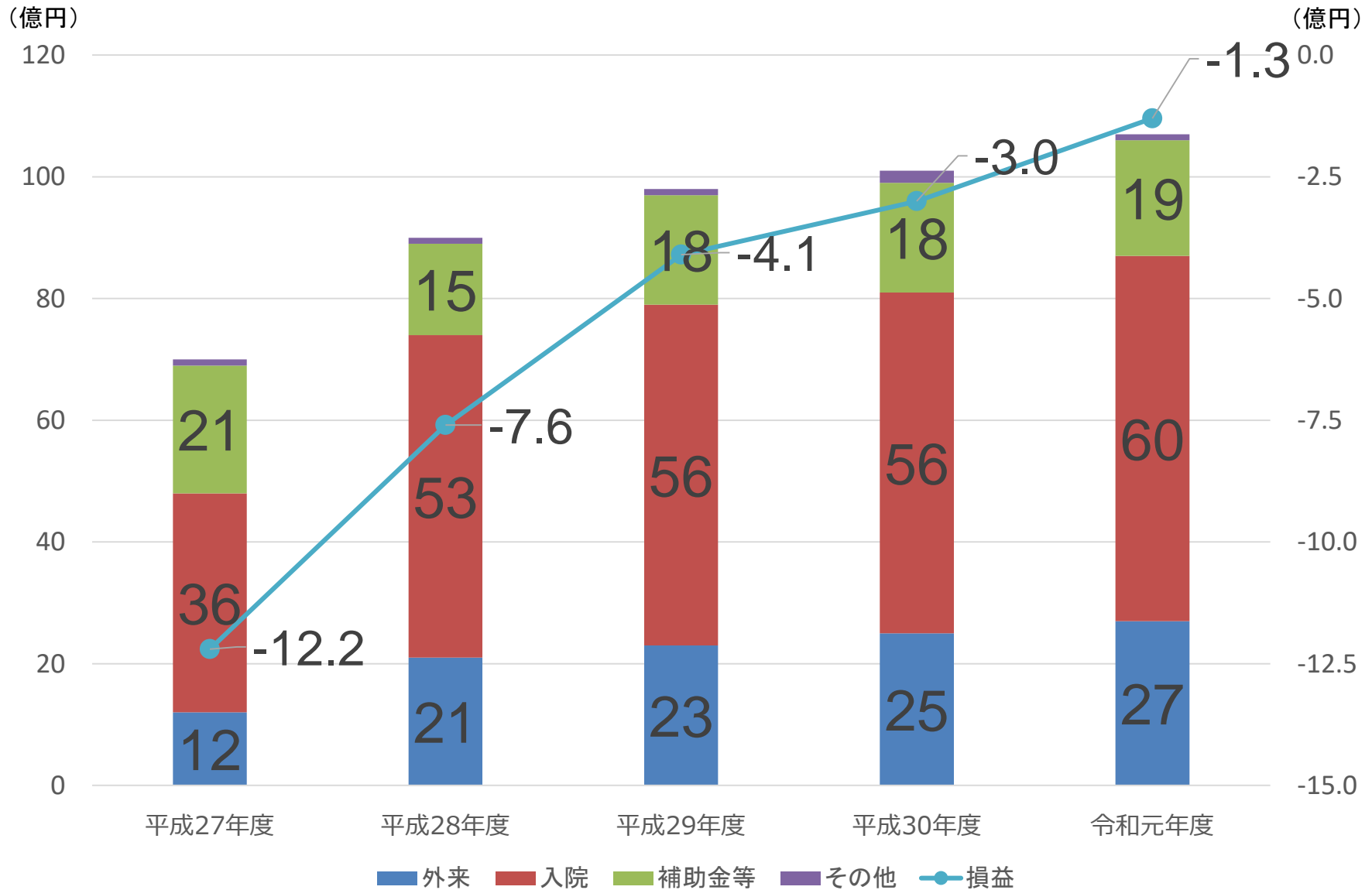
<収入面>

■ 運営財源の81%が病院事業収入

<支出面>

■ 支出項目の構成割合に前年度から大きな変動なし

医業収入及び損益の年次推移



累積損失の年次推移

(億円)

30

25

20

15

10

5

0

30.5億円
(基本財産)

12.2

19.8

23.9

26.9

28.2

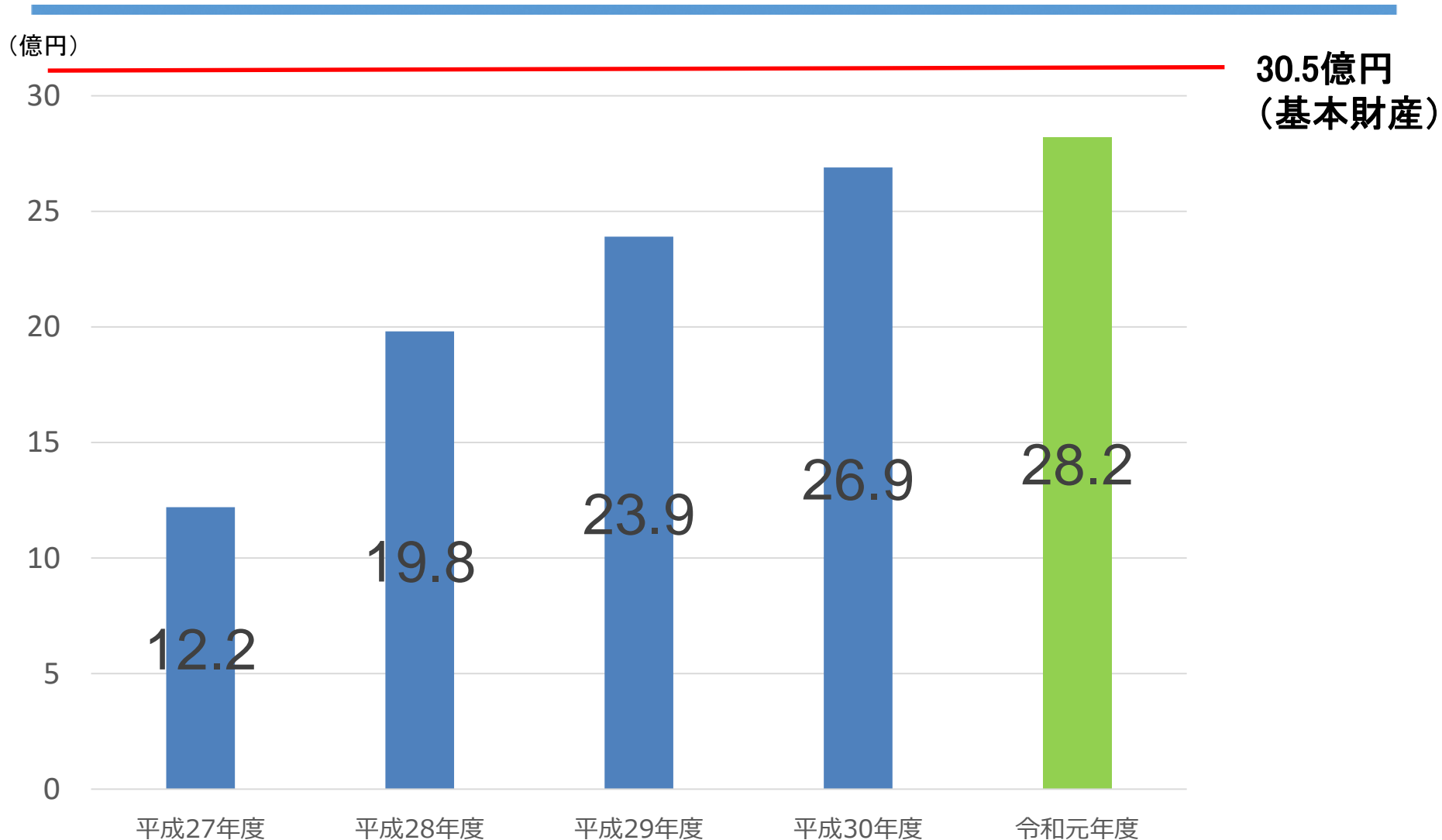
平成27年度

平成28年度

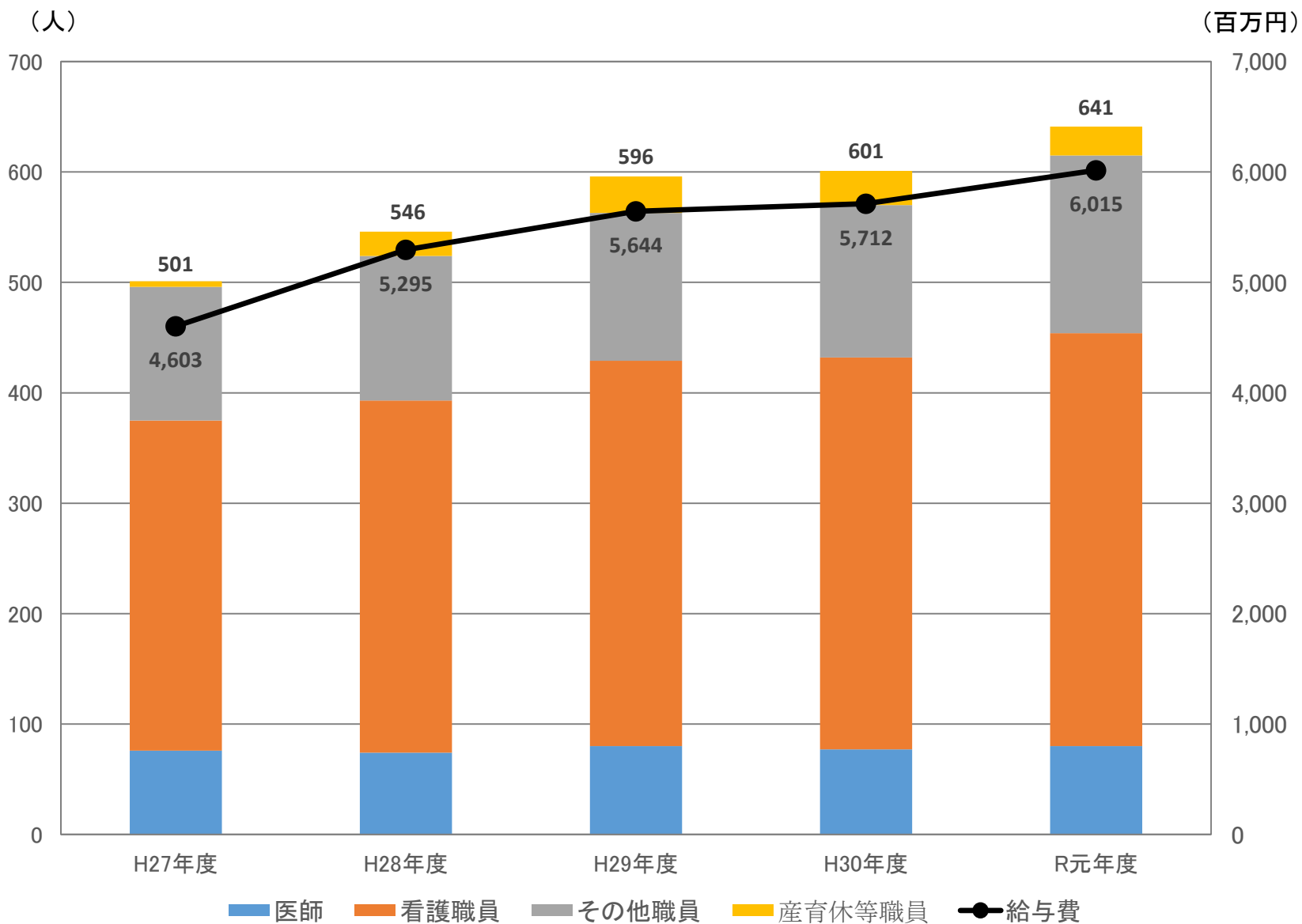
平成29年度

平成30年度

令和元年度



スタッフ数及び給与費



スタッフ数

R3.3.31現在

医師

医師の専門科	人	医師の専門科	人	医師の専門科	人
総合診療科	1	消化器外科	4	産婦人科	9
循環器内科	1	心臓血管外科・ 呼吸器外科	2	放射線治療科・放 射線診断科	2
血液・内分泌・ 代謝内科	4	整形外科	9	麻酔科	3
腎・呼吸器・感 染症内科	7	脳神経外科	3	病理診断科	1
消化器内科	5	皮膚科	4	救急科	2
神経内科	3	泌尿器科	3	歯科口腔外科	2
精神科	4	眼科	3		
小児科	6	耳鼻咽喉科	3	医師数合計	81

※1 短時間勤務医5名(心臓血管外科1名、泌尿器科1名、産婦人科1名)含む。

※2 臨床研修医3名は除く。

※3 呼吸器・感染症内科医師数に病院長を含む。

<内訳>

教育センター教員	39
病院勤務医・県派遣	42

メディカルスタッフ等

職 種	プロパー職員	県派遣職員等	計
看護師	259	131	390
助産師	23	7	30
薬剤師	11	5	16
介護福祉士	17		17
診療放射線技師	22	2	24
臨床検査技師	21	5	26
理学療法士	14	2	16
作業療法士	10	1	11
言語聴覚士	3		3
臨床工学技士	10		10
視能訓練士	2	1	3
歯科衛生士	3		3
管理栄養士	7	1	8
医療ソーシャルワーカー	6	1	7
臨床心理士	2		2
事務等	28	7	35
計	438	163	601

※ 産育休代替職員を含む。

2019年度 医療機関別係数 2019.4 時点

基礎係数 ①	1.0314	<参考> 2020.4 時点
機能評価係数 I ②	0.2213	1.0404
機能評価係数 II ③	0.1258	0.2768
医療機関別係数 ① + ② + ③	1.3785	0.1241
		1.4413

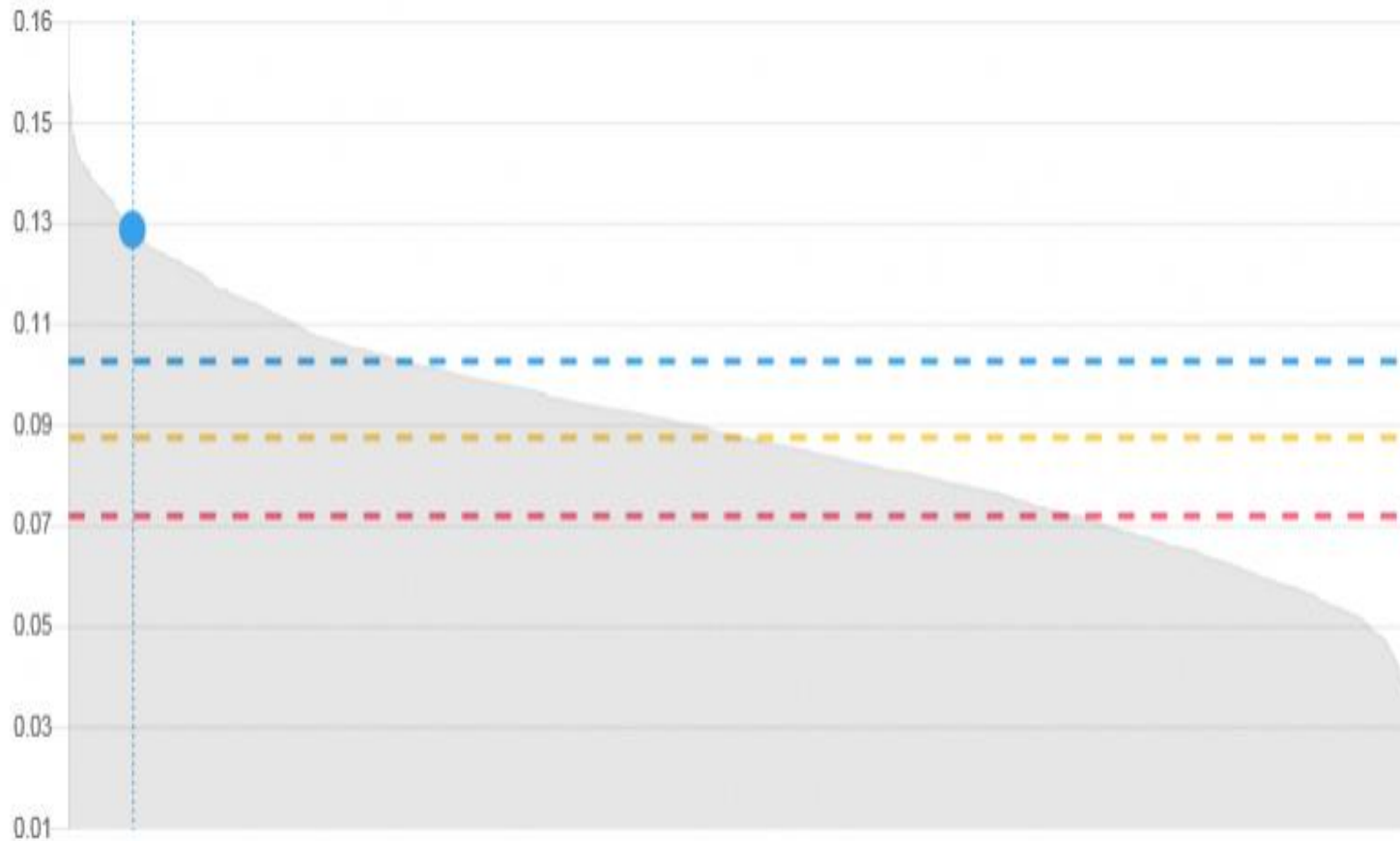
機能評価係数 II

項目名	2019年	2019年 平均値 大学病院本院群	2019年 平均値 DPC特定病院群	2019年 平均値 DPC標準病院群	2019年 平均値 新潟県	2019年 平均値 魚沼	2019年 ランク (比較病院数) 全国(1727)	2019年 ランク (比較病院数) 新潟県(33)	2019年 ランク (比較病院数) 魚沼(3)
保険診療	0.01605	0.01601	0.01601	0.01599	0.01598	0.01605	1	1	1
効率性	0.02502	0.01582	0.01853	0.0147	0.01243	0.01439	123	2	1
複雑性	0.01309	0.01552	0.01598	0.0168	0.01856	0.01875	1115	26	3
カバー率	0.01493	0.01524	0.0152	0.01108	0.01068	0.00811	554	7	1
救急医療	0.02088	0.00897	0.01957	0.0154	0.01408	0.01402	446	5	1
地域医療	0.03586	0.01651	0.0156	0.01212	0.01404	0.0192	92	3	1
後発医薬品									
重症度									
合計	0.1258	0.08809	0.10089	0.08608	0.08579	0.0905	83	3	1

他病院との比較でも当院の係数は高い。ただし、複雑性は低い。

当院は全国上位の係数

機能評価係数Ⅱ ベンチマーク<全ての医療機関群 全国 2019 年度>

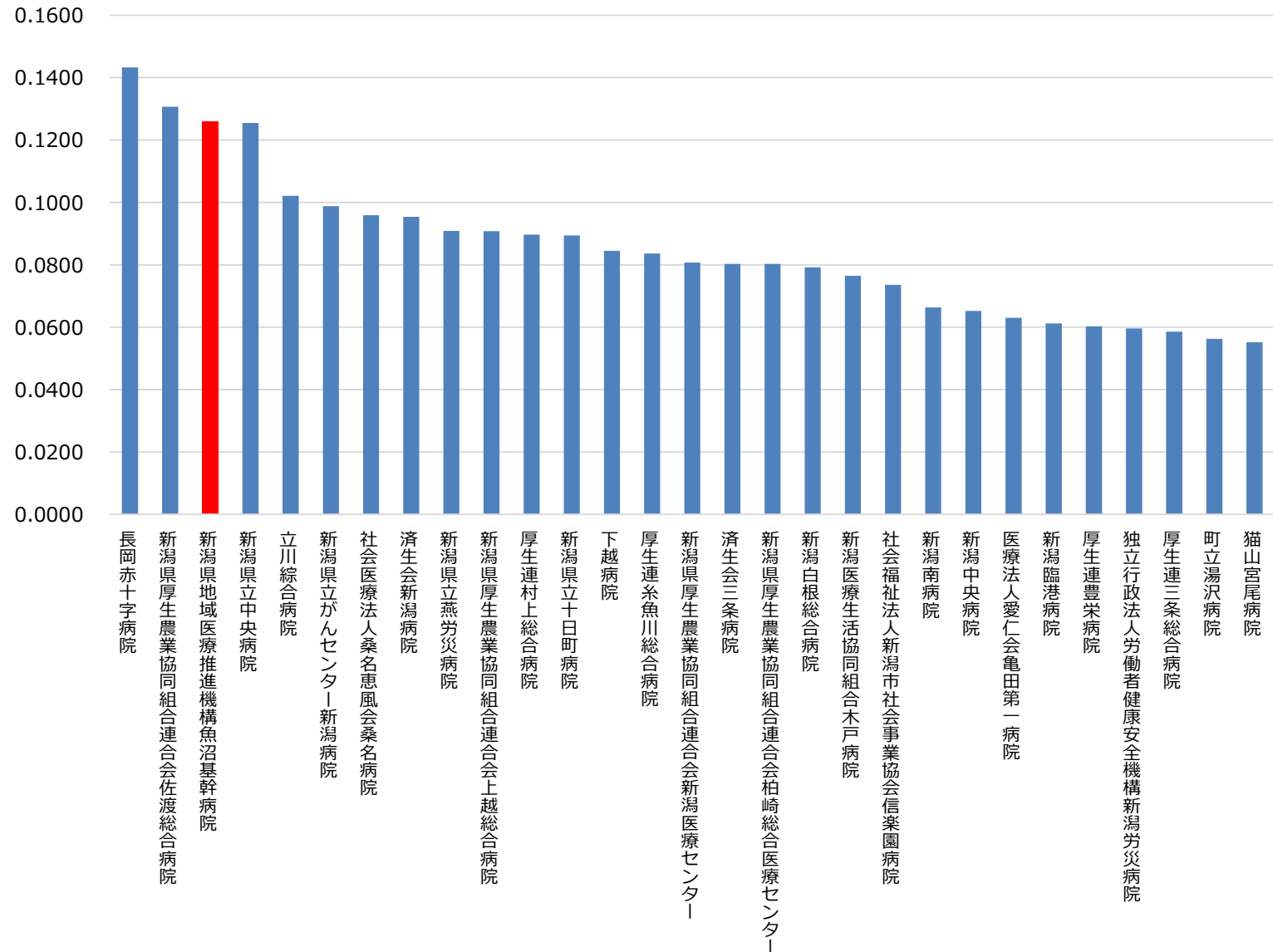


係数選択

- 機能評価係数Ⅱ
- 保険診療
- 効率性
- 複雑性
- 力バー率
- 救急医療
- 地域医療
- 後発医薬品
- 重症度

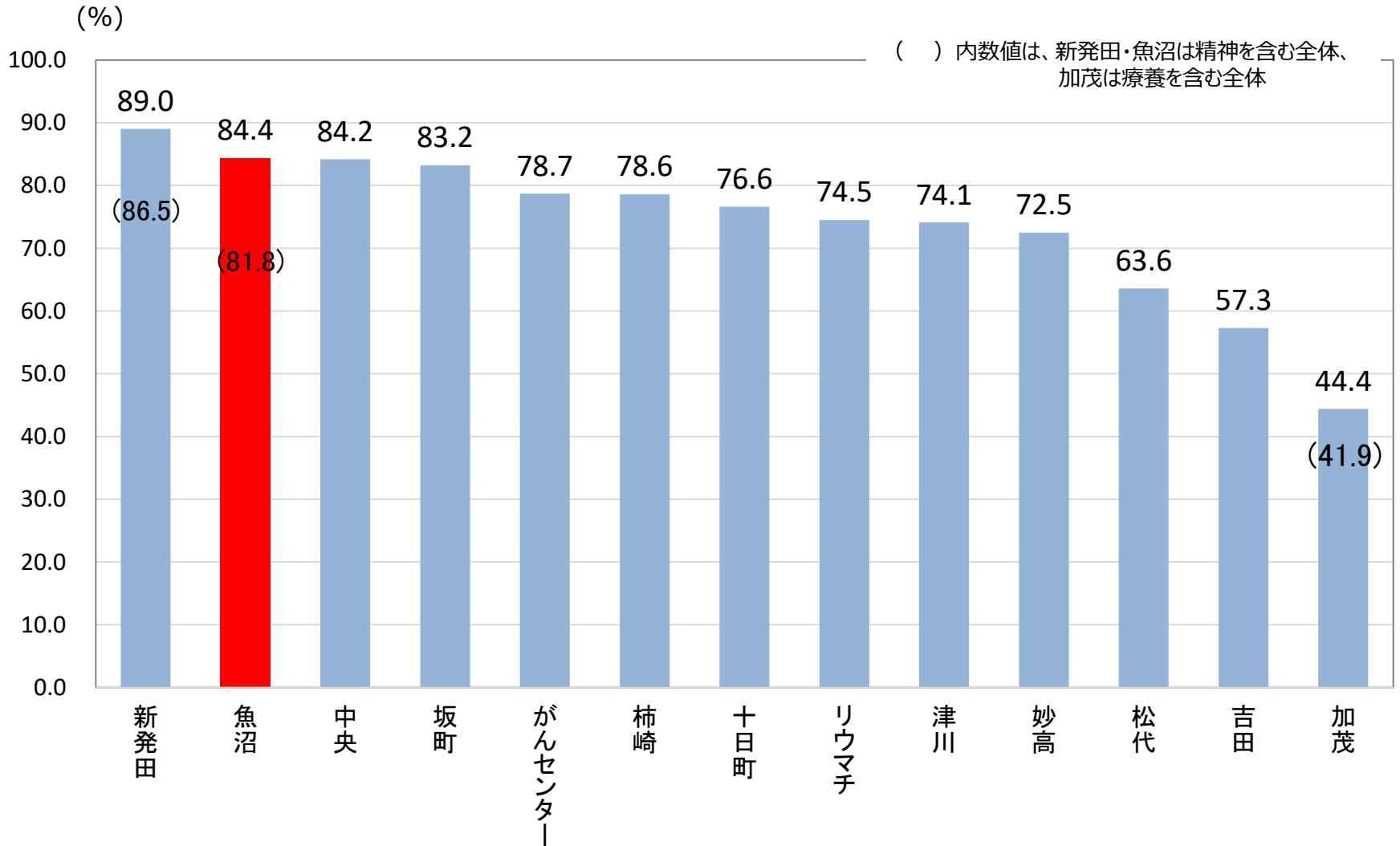
— 上位25パーセンタイル — 中央値 — 下位25パーセンタイル

県内DPCⅢ群病院との機能評価係数Ⅱの比較



病床利用率（一般）

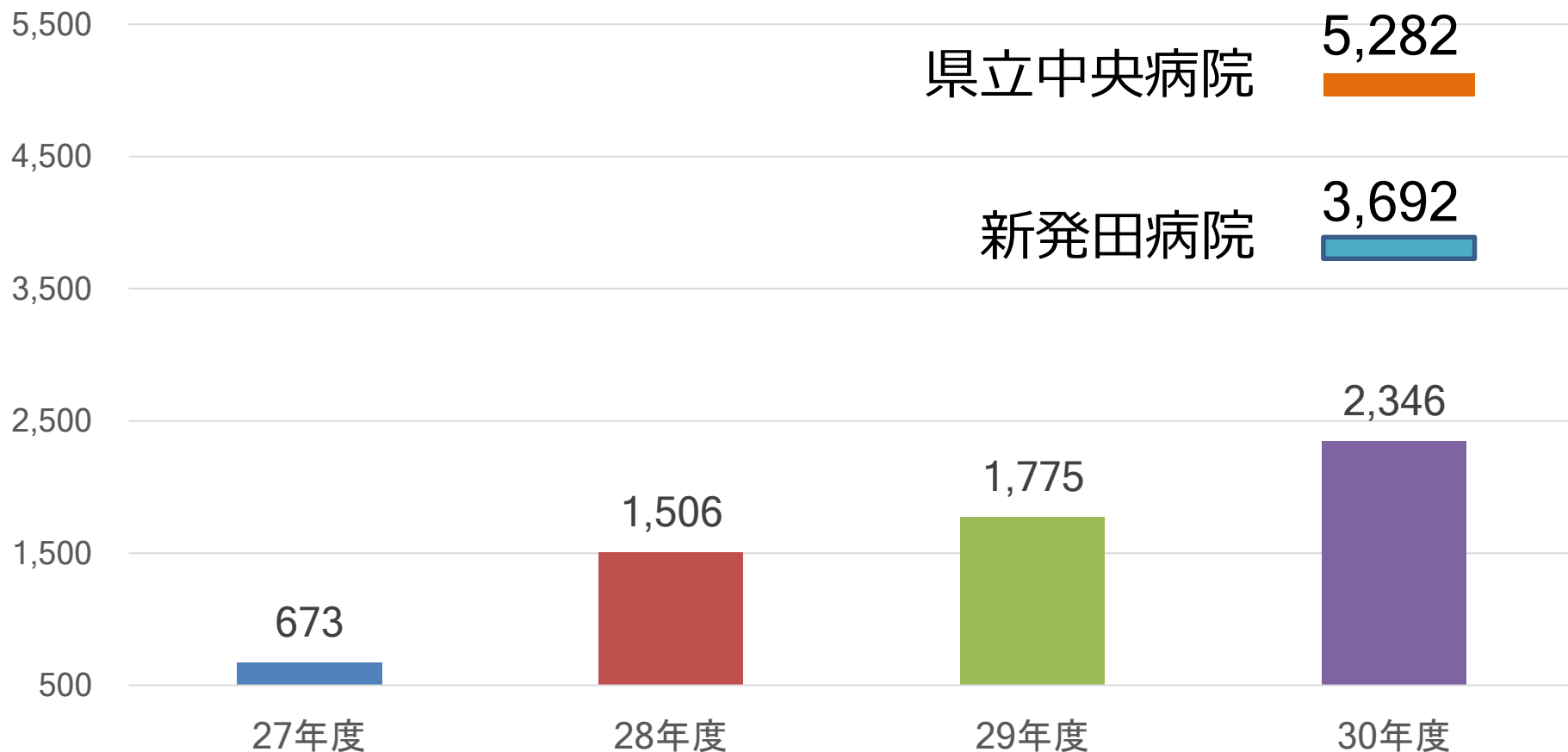
平成30年度 対県立病院比



※ 県公表資料「平成30年度病院別の決算状況」を基に作成（感染症患者を除いて算出）

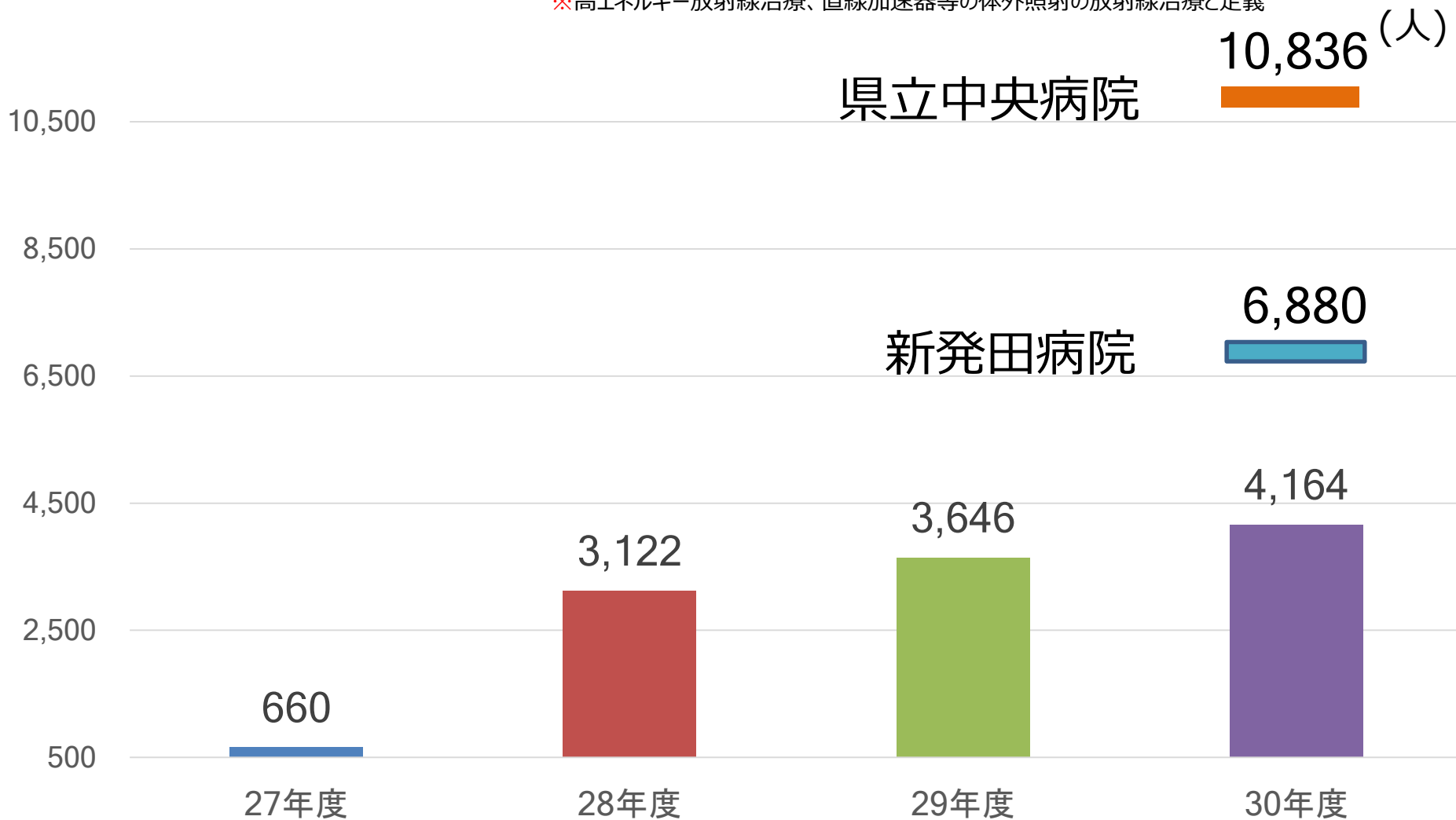
外来化学療法延患者数

(人)

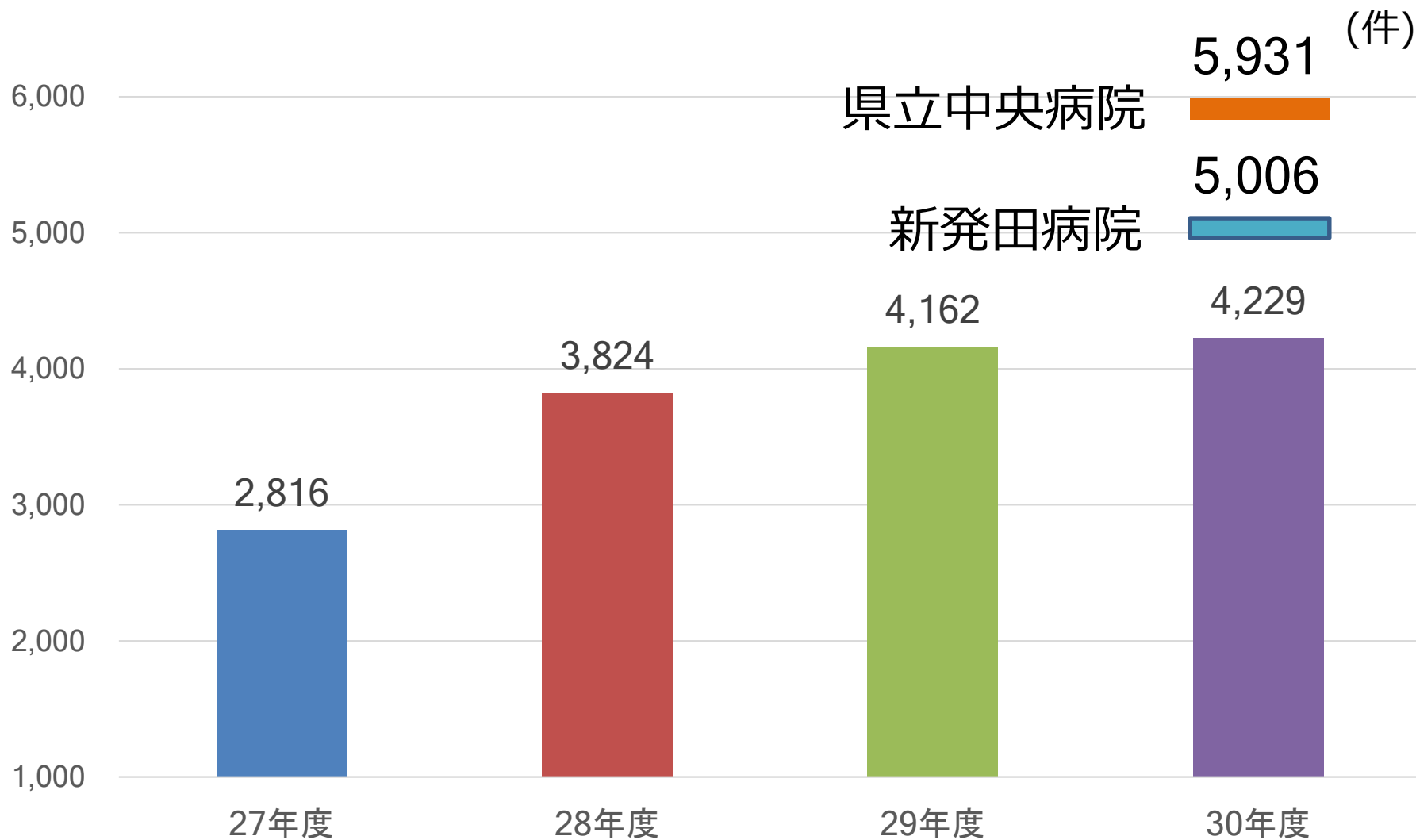


放射線治療延患者数[※]

※高エネルギー放射線治療、直線加速器等の体外照射の放射線治療と定義



手術室手術件数



職員総数

R3.4.1現在

851名

医師数

R3.4.1現在

81名

内センター教員 36名

内臨床研修医 5名

内 基幹型3名、協力型2名

看護師/助産師数

R3.4.1現在

看護師

421名

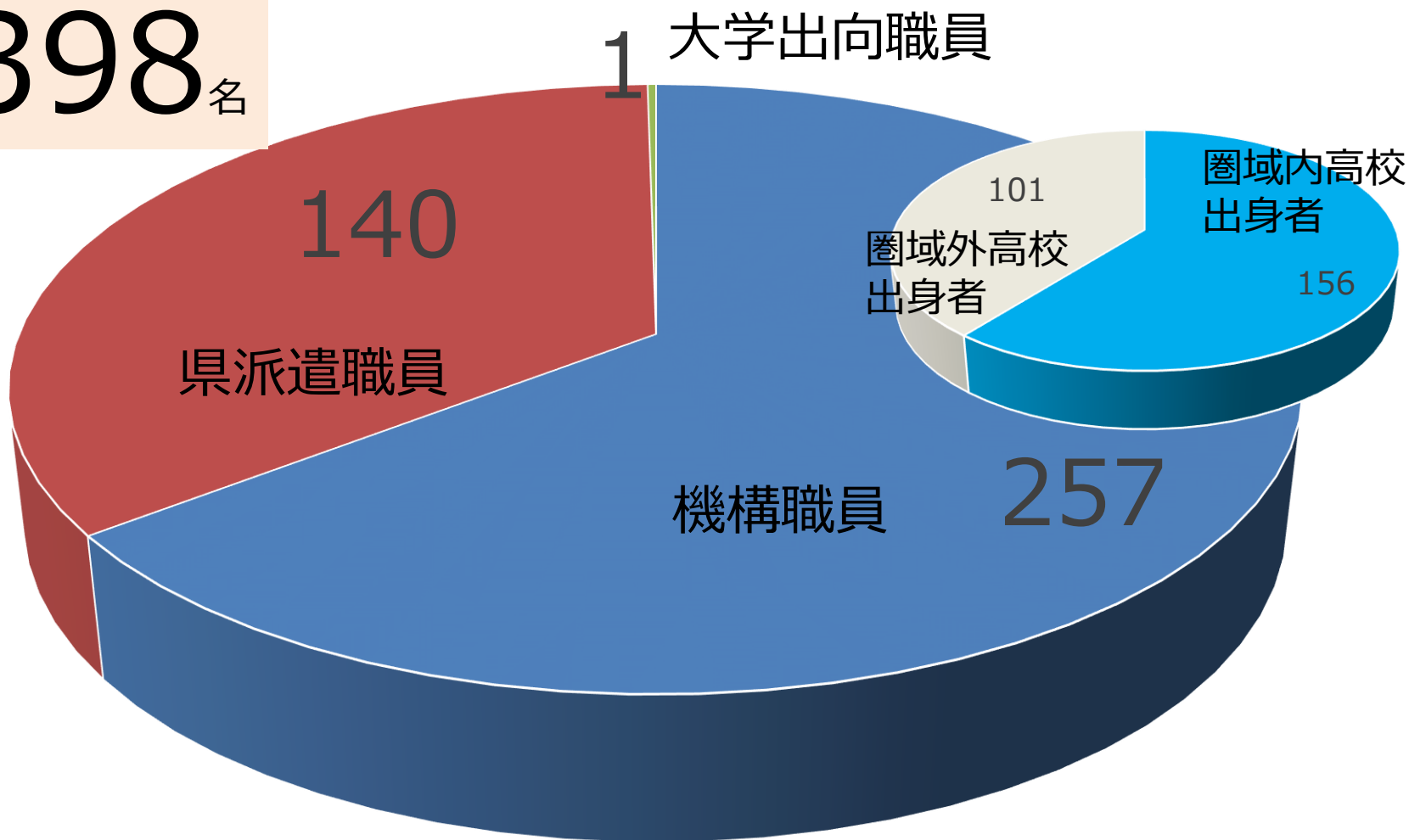
内産育休26名

助産師

33名

看護職の所属/出身校の内訳 H31.4.1現在

計 **398** 名

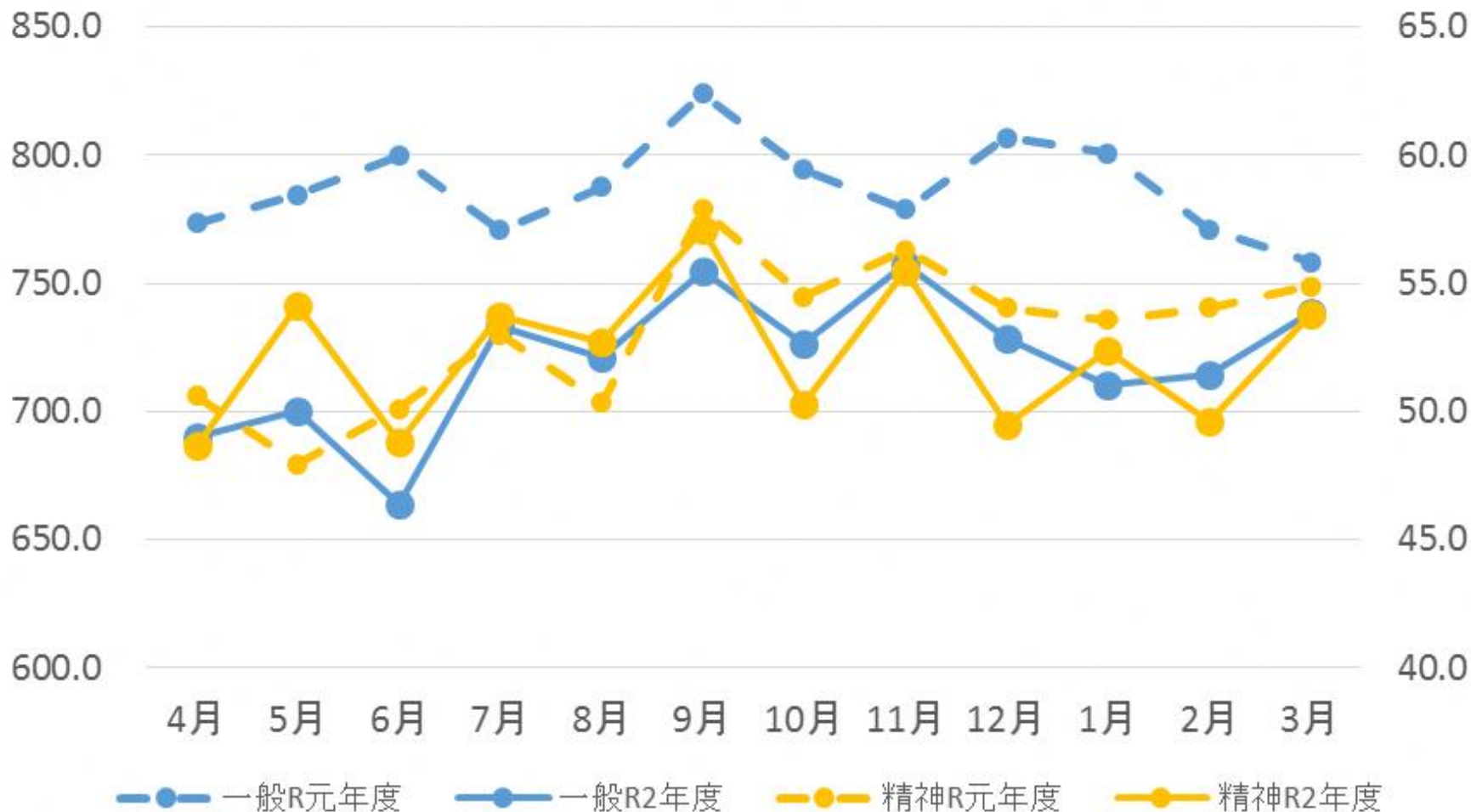


外来患者数（1日あたり）

(一般：人/日)

(精神：人/日)

外来患者数



紹介率・逆紹介率

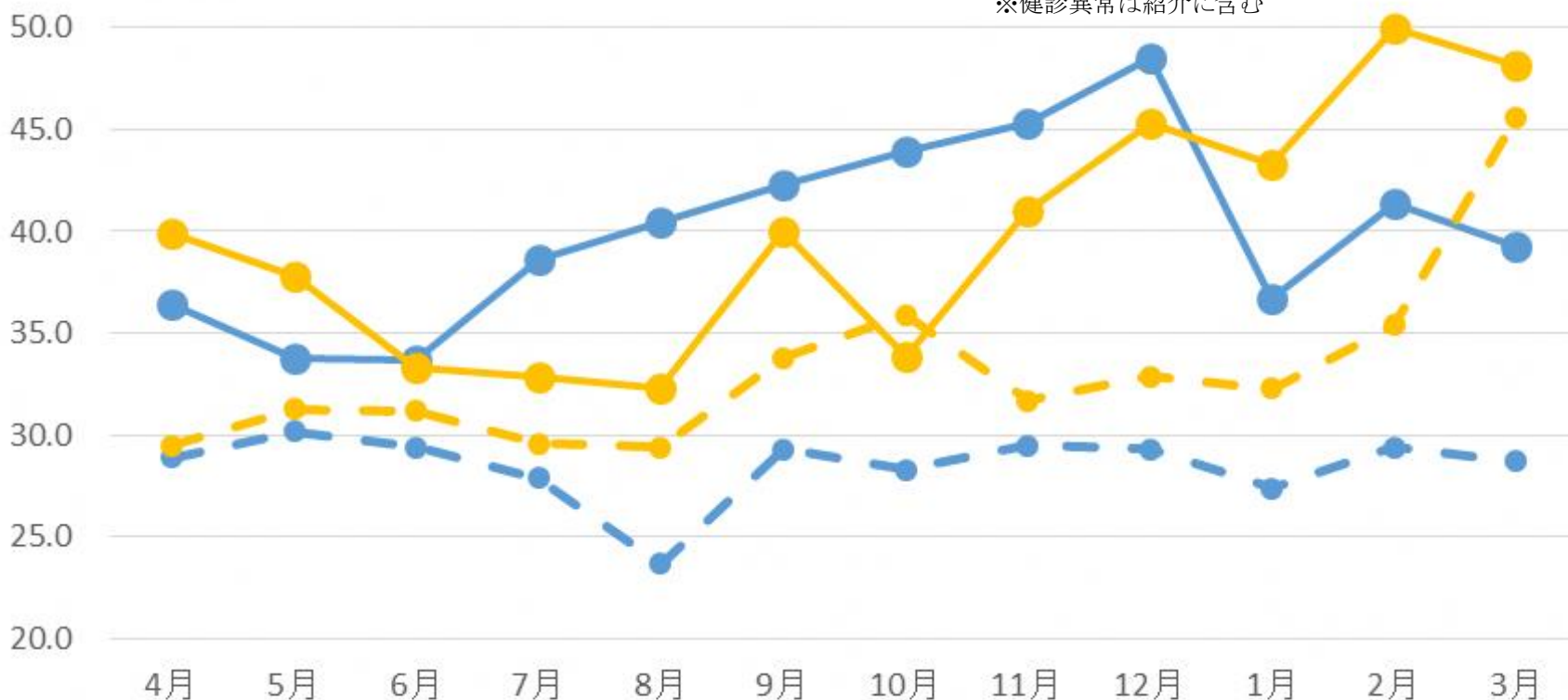
(%)

紹介率・逆紹介率

(単位:人)

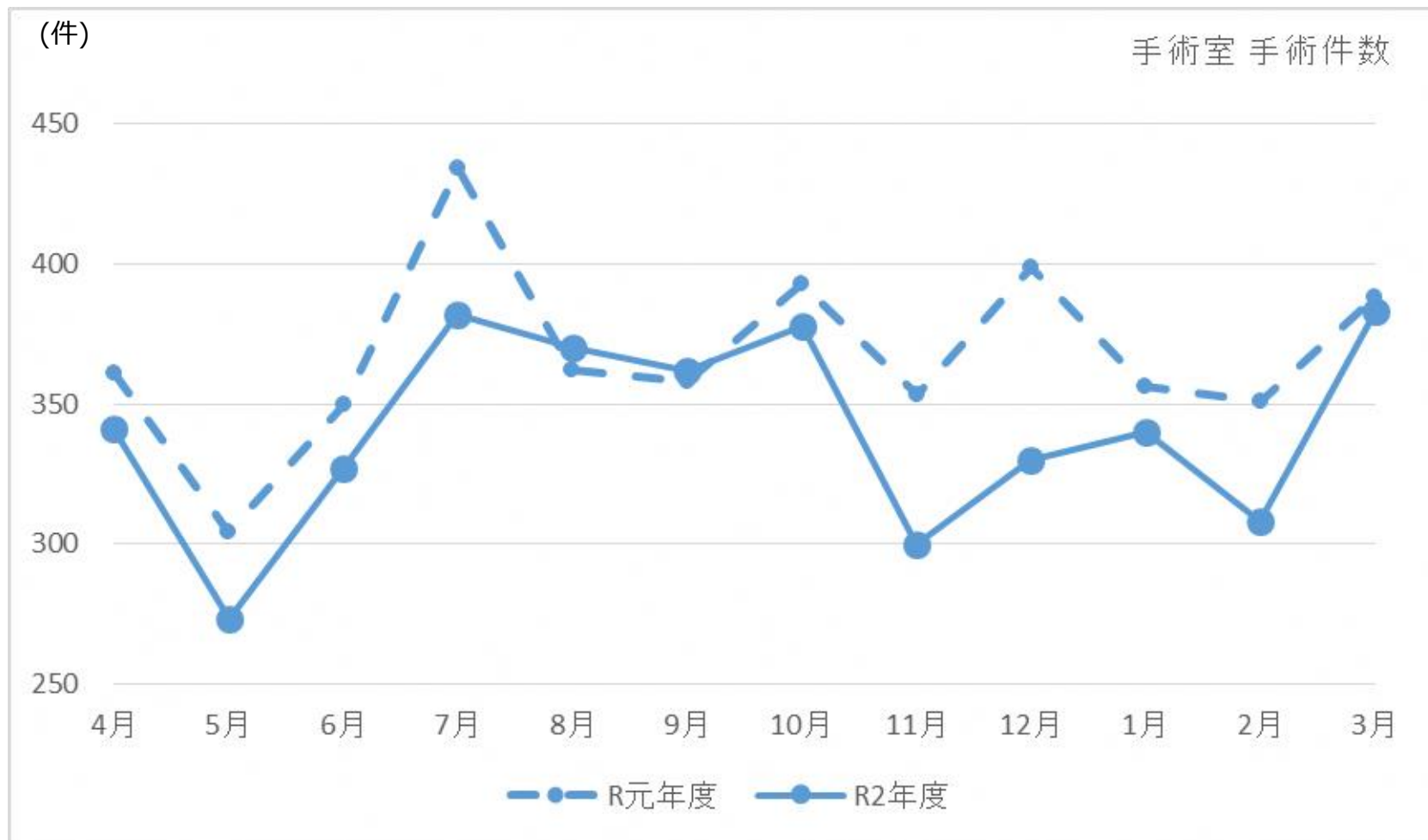
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
健診異常(再診含む)	10	18	41	62	98	80	99	103	74	60	55	40

※健診異常は紹介に含む

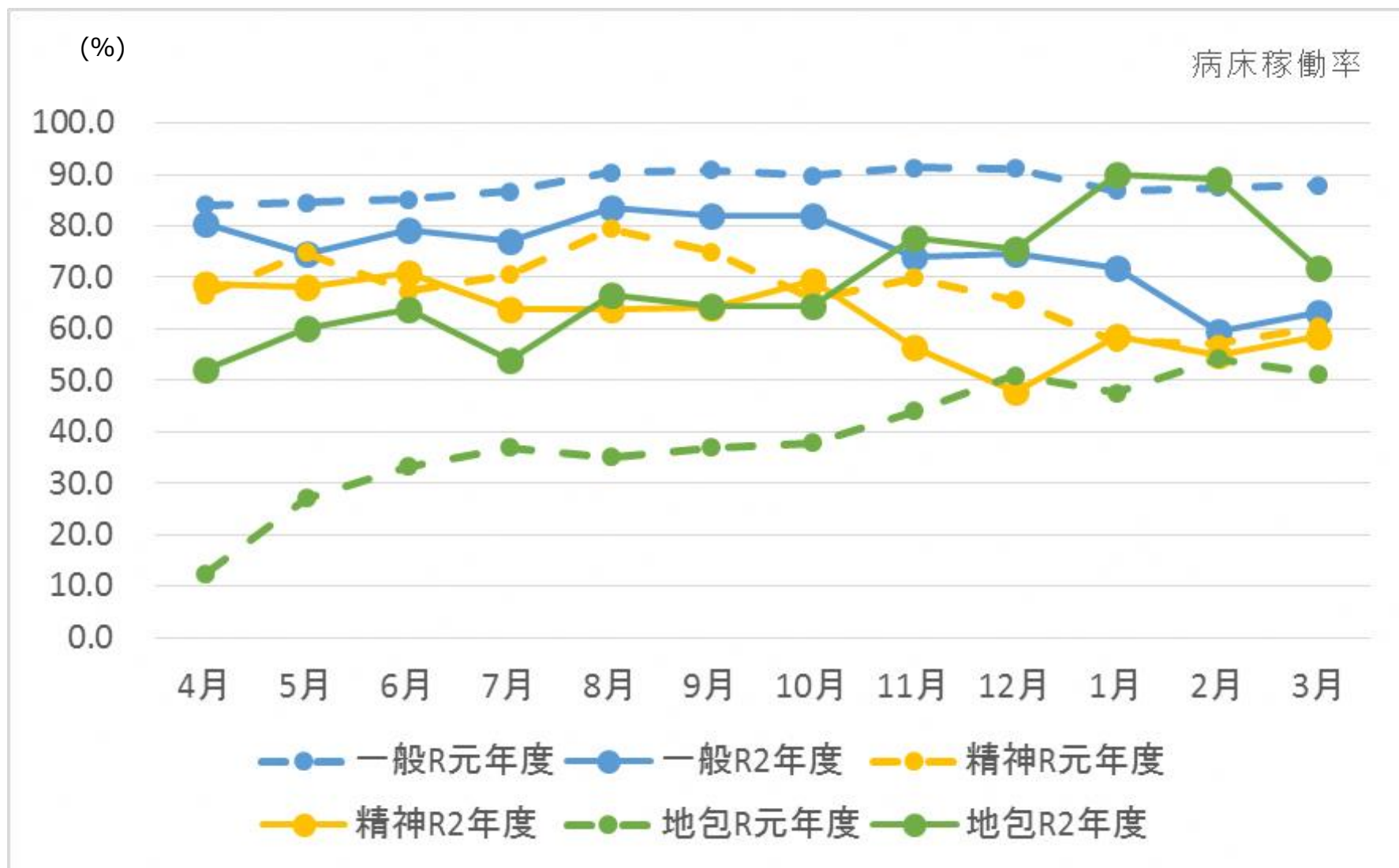


●● 紹介率R元年度 ●● 紹介率R2年度 ●● 逆紹介率R元年度 ●● 逆紹介率R2年度

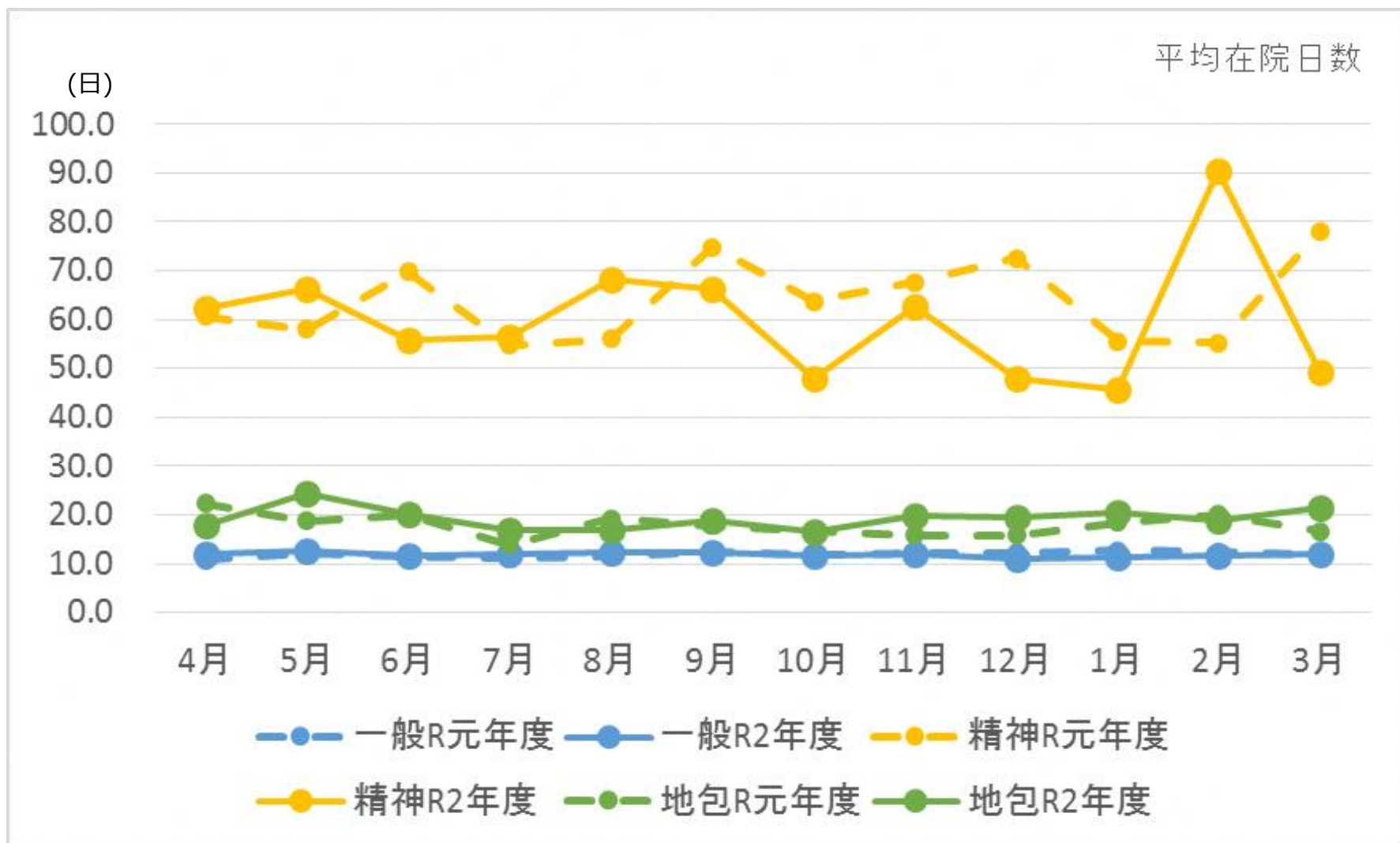
手術室 手術件数



病床稼働率



平均在院日数



病棟開設

- 西5病棟を整形外科単科病棟として開設
- 新型コロナウイルス感染症対応を行いながら地域の医療需要に応える

2月1日 新病棟を開設しました。

新年早々、新型コロナウイルス感染症への対応に追われ、年頭のご挨拶もしていませんでしたが、患者さんのご協力と当院職員の頑張りにより、魚沼地域唯一の感染症指定医療機関としての役割とともに、当地における高度医療の提供、救急医療の提供という当院の使命は、なんとか果たせていると思っています。

このような大変な時期ですが、魚沼地域の皆さんの期待にさらに応えるために、2月1日に計画されていた新病棟の開設を行いました。職員の皆さんには大変なご苦勞をおかけしていますが、その対応には素晴らしいものがあつたと感謝しています。

令和3年の新たな年の初めにあたり、魚沼地域における当院の使命を実践していくために、さらに邁進していきたいという思いを新たにしています。

皆様のご理解、ご協力をよろしくお願いします。



新設病棟 (356床→387床)

	東	西
8階	精神科 50床	
7階	 49床	脳外科 呼吸器内科／外科 総診 49床 (1/4～コロナ専用病床)
6階		地域包括ケア病棟 眼科 48床 (R1開設)
5階	血液内科 神経内科 (整形外科→西5へ) 48床 (R3.2～当面30床運用)	消化器内科／外科 49床 循環器内科 泌尿器科
4階	小児科 腎臓内科 内分泌・代謝内科 皮膚科 耳鼻科 歯科 43床	整形外科病棟(R3.2新設) 49床
		産婦人科 43床 NICU 6床 GCU 6床

救命救急センター 14床

からだにやさしい治療センター開設しました！



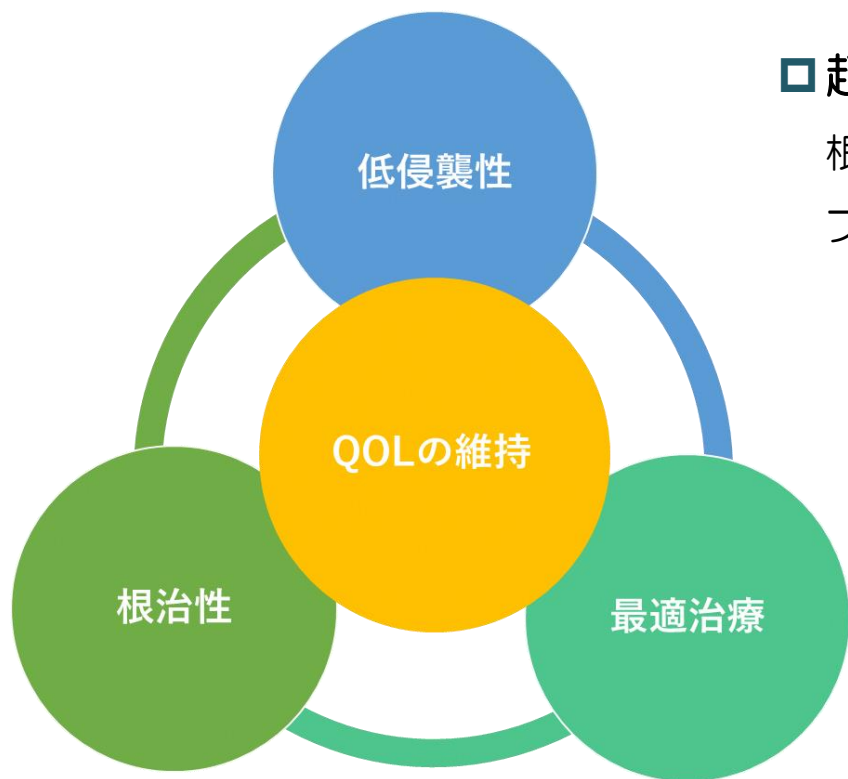
からだにやさしい
治療センターについて

主な治療のご紹介
(気になる治療・病気から探す)

主な治療のご紹介
(診療科から探す)

受診方法・紹介方法

からだにやさしい治療センターのコンセプト



□ 超高齢社会に即した低侵襲治療の積極適応

根治性を担保しつつ患者さんのQOLを確保
フレイル状態や寝たきりの回避

□ 診療科横断的な治療体制

治療手段の柔軟性を確保
患者さん毎の最適な治療バランスの確保

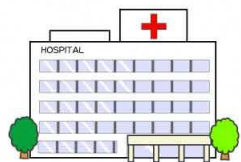
□ 高度医療と地域医療の両立

地域医療の魅力の再発信
意欲的な医師の確保・育成

地域がん診療連携拠点病院の指定

県立がんセンター新潟病院

新潟大学医歯学総合病院

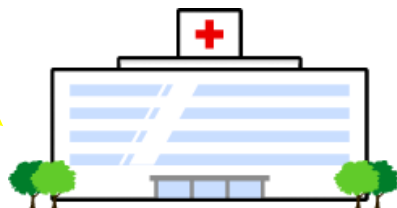


県がん拠点病院

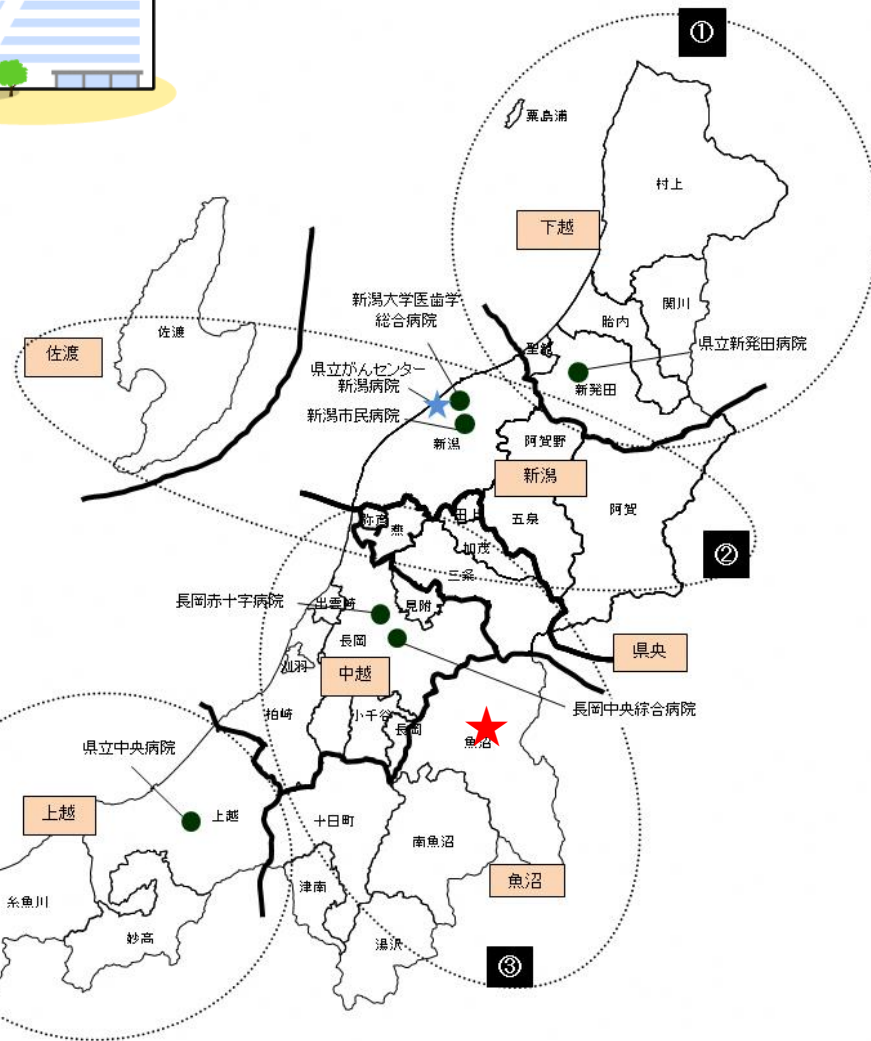


先進医療・研究

魚沼基幹病院



がん相談支援センター設置
緩和ケア外来設置
緩和ケアチームによる支援

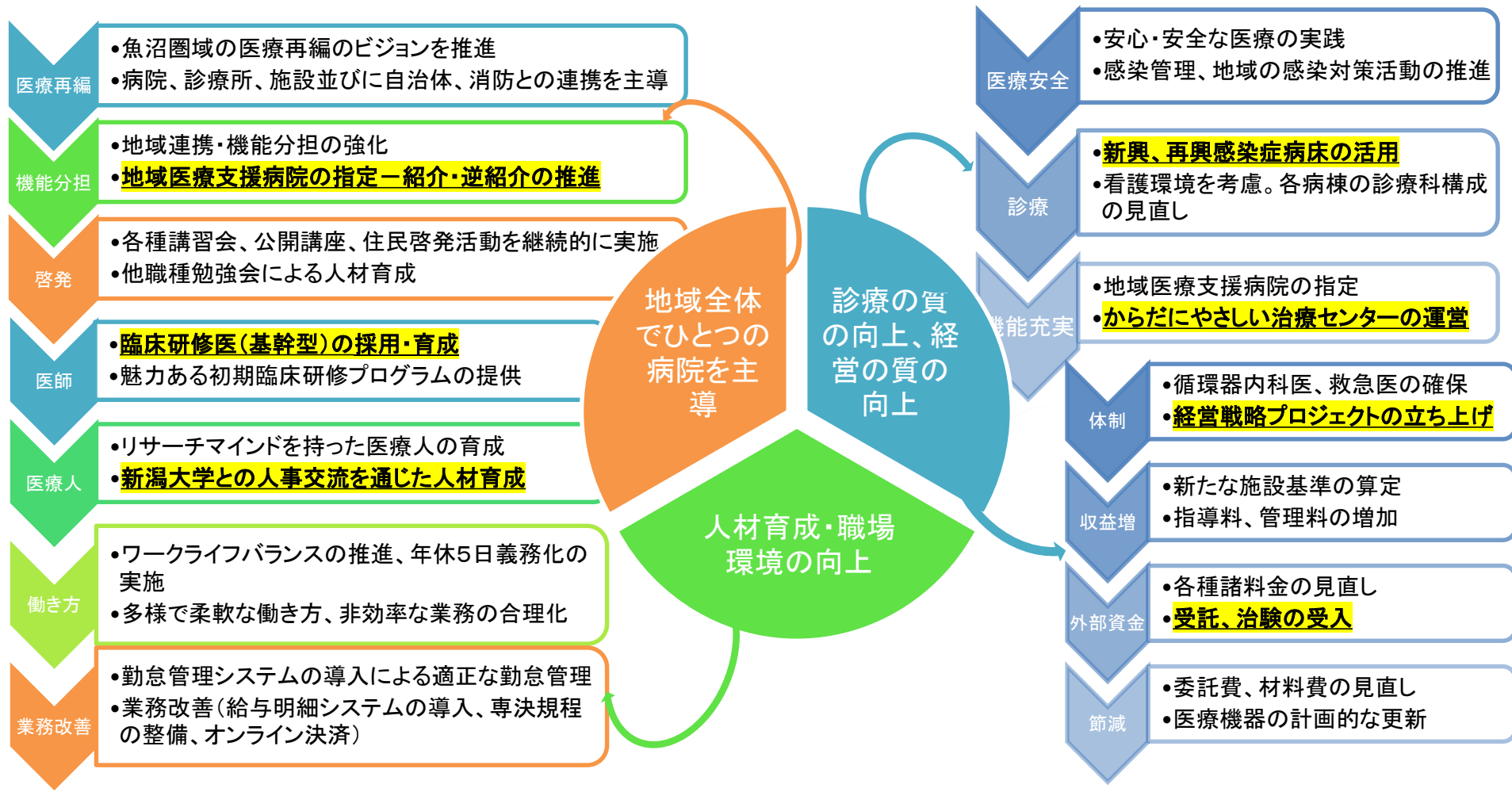


【協会けんぽ】悪性新生物（入院）





令和3年度 事業計画 3本柱



教育研修体制の強化

◎臨床研修医 4名 (令和3年度)



○臨床研修医の環境・処遇改善

- 1) 基本給(36万円)5万円UP
 宿舎料の無料化(1万5千円/月)
- 2) 短期海外研修制度(費用病院負担)
 ハーバード大医療ビックデータセミナー
 に参加など(2週間程度)
- 3) 臨床研修医専用居室の整備
- 4) 支援体制の充実
 総務課医局・臨床研修係新設
 新規に係長1名、主事1名を配置(新潟大学から出向)

◎医療系多職種^①の教育・研修を推進

○特定行為研修(看護師)

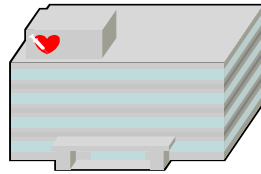
- ・特定行為研修の実習医療機関となる準備を進める
- ・看護の専門性を高め、実践力の高い看護師を育てる
- ・新潟大学医歯学総合病院から副看護部長(特定行為研修担当)1名を出向配置

地域医療支援病院の承認を目指した取組

地域医療支援病院の役割

地域医療支援病院

- 原則として、いわゆる紹介外来制を実施。
- 24時間体制で入院治療を必要とする重症救急患者に必要な検査、治療を実施。このため、集中治療室等の整備、救急用自動車等の配備、通常の当直体制のほかに医師等を確保。
- 地域の医師会等医療関係団体の代表、都道府県・市町村の代表、学識経験者等で構成する委員会を開催し、病院運営等について審議。



地域医療の確保を支援

・協議会への参画

地域医療対策協議会を設置し、医師確保対策等を定め、公表

都道府県・保健所



- 地域医療体制の確保
- 医療機関の選択に資する情報の提供を支援
- 地域保健に関する思想の普及・向上

機能分化・連携

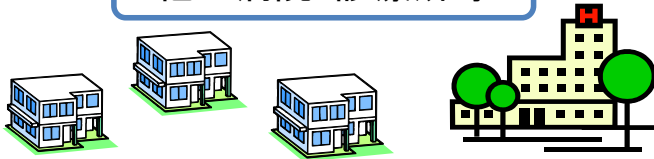
- ・患者の意思を確認した上で逆紹介を推進
- ・地域の医療従事者の資質向上のための研修を実施
- ・在宅医療の支援（提供者間の連携の支援、在宅医療に関する情報の提供など）

- ・患者の紹介
- ・医療機器、病床等の共同利用

- ・居宅等での療養の支援（在宅医療に関する情報の提供など）

- ・かかりつけ医等からの紹介受診
- ・救急受診

他の病院・診療所等



○患者に、より身近な地域での医療の提供

- ・一般的な入院診療、外来診療、往診、訪問診療等

患者・地域住民



○国民自らの健康の保持増進のための努力

当院の今後の課題

診療体制の充実

○循環器内科チームの再編

	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
入院患者数		3,761	3,562	73	190	318
外来患者数		3,930	4,432	3,970	4,363	3,478
心カテ検査数	93	119	121	14	12	13
心カテ治療数	57	96	115	9	31	15

(~R3.2)

診療科のさらなる充実

- ・救急科
- ・総合診療科
- ・放射線診断科
- その他

看護師・医療技術職のさらなる増員

- ・薬剤師
- ・リハビリテーション職(PT、OT、ST)
- ・管理栄養士
- その他

新型コロナウイルス感染症対応と高度・救急医療の両立！

持続可能で質の高い医療を提供し続けるための 新潟県地域医療構想の実現に向けた今後の方向性

令和3年4月
新潟県福祉保健部

(1) 地域で高度な医療を支える柱となる病院

(2) 地域包括ケアシステムを支える医療機関

- 「地域で高度な医療を支える柱となる病院」とともに、一定の休日・夜間の二次救急患者を受け入れる（いわゆる「救急拠点型」）
- 日中の二次救急患者の受入れを含むサブアキュート機能や他病院等と連携した退院支援機能を中心に担う（いわゆる「地域密着型」）



魚沼地域医療構想調整会議



新潟大学地域医療教育センター 魚沼基幹病院

魚沼基幹病院ロゴへの思い

**魚沼基幹病院の使命は「医療再編の拠点」と
「地域医療を担う人材の育成」。**

地域内の医療機関と結びつき、医療再編の拠点としての役割を、
魚沼エリアの自然を代表する“雪”の結晶、
スノーフレイク（六角形）で表現しました。

「地域医療を担う人材の育成」を、大きく育っていく木で表し、
魚沼基幹病院は、その木を育てる大地の役割でありたいと考えています。

新潟発、世界に誇れる病院を目指して想いを込めました。